

埼玉昆虫談話会

寄世蛾記 No. 87



1998. May. 31.

「寄せ蛾記」87号 表紙の説明

◆ジャコウアゲハ

ジャコウアゲハを見ると西表島を思い出す。紺碧の空の下、燃えるような赤い色で吸密する姿は、南国の島に実によく似合い、強く印象に残っている。

ジャコウアゲハも西表島まで来れば、本州のものとは大分ことなり、個体変異のおもしろさがうかがえる。

神久保 美津夫

表紙

図 : 神久保 美津夫

デザイン : 小堀 文彦

.....
 飯能市・所沢市産コガネムシ類数種の記録

和田 一郎・小堀 文彦

以下に埼玉県飯能市を中心としたコガネムシの採集記録を報告する。これらの内、飯能市美杉台における採集物はいずれも、和田が住んでいるコンフォール21というマンションの階段の電灯に集まってきたものであり、夜間または朝に採集した。また、所沢市のものは、直翅目を主な目的とした夜間採集の際に樹葉上に静止していたものを採集した。

採集は和田、同定は小堀が行った。なお、標本は小堀が保管している。

GEOTRUPIDAE センチコガネ科

1. *Geotrupes laevistriatus* センチコガネ

飯能市美杉台5丁目:2.VI.1997.1♂1♀

SCARABAEIDAE コガネムシ科

1. *Maladera castanea* アカビロウドコガネ

飯能市美杉台5丁目:29.Jun.1997. 2 exs.;1.Aug.1997. 1 ex.

2. *Maladera orientalis* ヒメビロウドコガネ

所沢市上山口虫たちの森:11.July.1997. 1 ex.

3. *Maladera renardi* オオビロウドコガネ

飯能市美杉台5丁目:28.May.1997. 1 ex.;29.May.1997. 1 ex.;2.Jun.1997. 1 ex.;6.Jun.1997. 1 ex.

4. *Nipponoserica peregrina* ワタリビロウドコガネ

飯能市美杉台5丁目:22.May.1997. 2 exs.;27.May.1997. 3 exs.;28.May.1997. 5 exs.;2.Jun.1997. 1 ex.

5. *Holotrichina parallela* オオクロコガネ

飯能市美杉台5丁目:19.Jun.1997.2exs.;4.July.1997.2exs.

6. *Holotrichina picea* コクロコガネ

飯能市美杉台5丁目:29.Jun.1997. 1 ex.;25.May.1997. 1 ex.;5.May.1997. 1 ex.;6.Jun.1997. 1 ex.

7. *Heptophylla picea* ナガチャコガネ

飯能市美杉台5丁目:29.May.1997. 1 ex.;16.Jun.1997.1ex.

所沢市上山口虫たちの森:23.Jun.1997.2exs.

8. *Adoretus tenuimaculatus* コイチャコガネ

飯能市美杉台5丁目:29.May.1997. 1 ex.;30.May.1997. 1 ex.

9. *Blitopertha orientalis* セマダラコガネ

飯能市美杉台5丁目:6.Jun.1997. 1 ex.;17.Jun.1997. 1 ex.;19.Jun.1997. 1 ex.;29.Jun.1997. 1 ex.

10. *Anomala cuprea* ドウガネブイブイ

飯能市美杉台公園:5.Jul.1997. 2 exs.

11. *Anomala testaceipes* スジコガネ

飯能市美杉台5丁目:15.Jul.1997. 1 ex.

(わだ いちろう 〒357-0041 飯能市美杉台5-2-12-213)

(こぼり ふみひこ 〒364-0024 北本市石戸5-263-1センチュリー北本高尾103)

.....

大滝村のタニガワモクメキリガ

神部正博 小堀文彦 矢野高広

.....

関東山地のタニガワモクメキリガは、既に東京都側と山梨県側で得られている。とくに、山梨県側では近年、記録が蓄積されつつある。ところが、これまで埼玉県側には本種の記録はなかった。当然ながら、埼玉県側にも分布することが予測された。

そこで、1998年3月は埼玉県秩父郡大滝村で集中的に調査した。その結果がまとまったので報告する。なお、採集法はライトトラップにより実施。

- ・大滝村 豆焼沢に沿う国道140号線の標高約1000m地点
1998年3月9日 飛来時刻：19時10分, 19時12分, 19時25分 (気温約5℃) 2♂ 1♀
矢野高広採集
- ・同上
1998年3月16日 飛来時刻：19時09分(気温2.1℃), 19時12分(気温2.0℃) 2♂
神部昭夫採集・神部正博採集
- ・大滝村 川又に近い、滝川溪谷に沿う国道140号線の標高約900m地点
1998年3月21日 1♂
矢野高広採集 (街路灯に飛来中、通行する車と衝突したと思われる個体を路上で拾得)
- ・大滝村 中津川に近い、中津川本流に注ぐ支流のひとつ、大若沢 標高約900m地点
1998年3月23日 飛来時刻：19時15分 1♂
神部正博採集
- ・同上
1998年3月28日 飛来時刻：19時45分, 19時50分, 19時56分 3♂
小堀文彦採集

(かんべ まさひろ 〒340-0035 草加市西町 366-7)
 (こぼり ふみひこ 〒364-0024 北本市石戸 5-263-1 センチュリー北本高尾103)
 (やの たかひろ 〒174-0064 板橋区中台 3-27 M409)

.....

97年中部イタリアで出会った蝶たち (その2)

中村 英夫

.....

筆者は1996年12月から、中部イタリア・ウンブリア州テルニ市に住むようになり、中部イタリアの蝶を採集する機会に恵まれている。1997年の1シーズンにウンブリア州および近隣の中部イタリア4州（ラツィオ、トスカーナ、マルケ、アブルッツォ、いずれも筆者自宅から2時間圏内）で採集観察し同定ができた蝶120種弱について、コメントをつけてまとめつつある。前回のアゲハチョウ科、シロチョウ科、シジミタテハ科に引き続きシジミチョウ科を報告する。今回はタテハチョウ科を予定している。なお、採集・観察地の県（Provincia）名の略号については前報を参照されたい。

◎ ミドリシジミ亜科

○ ミドリコツバメ *Callophrys rubi*

裏面の鮮やかな緑色が印象的な蝶。日本のコツバメ同様、春を告げる蝶で冬枯れの中、食樹のエニシダの黄色い花がぼつぼつ目立ちはじめるところから出現し晩春まで見られる。コツバメよりも高所で活動することが多く、日当たりのよい樹上でゼフィルスのような占有行動をとる♂がしばしば見られる。平地から亜高山帯までイタリア全土に広く分布しており、疎林や樹林周辺の空地に多い。

<採集例>	1♂	8-III	Stifone Frazione di Narni, TR
	1♂	25-IV	Lago di Albano, Albano Laziale RM
	1♀	4-V	Forca dell'Arrone (alt. 530m) Arrone, TR
	1♂	24-V	Valico Torre Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI

○ ヒメツマアカカラスシジミ *Satyrium spini*

半島最南端部をのぞくイタリアほぼ全域に分布するとされる種であるが、97年に多くの個体を目にできたのは亜高山帯であった。ベニシジミ類やヒメシジミ類に混じって訪花するが特に白い花を好むようで日本のカラスシジミやリングシジミに習性が似ているように思える。

<採集例>	1♂	12-VII	Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
	1♂ 3♀	9-VIII	M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI

○ *Satyrium ilicis*

ヒメツマアカカラスシジミよりも広く分布する普通種で、食樹を同じくするカシワミドリシジミと混棲している場合が多いようである。日中は白やうすいピンクの花に多く集まっているが、午後から夕刻にかけて♂が樹上で占有行動をとるのが見られる。♀は後翅肛角部にさまざま

まなレベルで橙色紋が出現する。飛び方は、ミドリシジミ亜科としては緩かなほうである。

<採集例> 14♂ 6♀ 21-VI ca. 4Km ovest di citta di Amelia, TR
2♂ 2♀ 22-VI Sud di M. Ventosola (alt.1000m) Norcia, PG

○ *Satyrium acaciae*

*Satyrium ilicis*によく似ているがやや小型である。ほぼイタリア全域に分布するが個体数は多くないのか、97年には下記1例を記録したのみ。ドイツでは減少している種にあげられている。

<採集例> 1♀ 6-VII Fonte di Brecciaro Assisi, PG

○ カシワミドリシジミ (ケルクスシジミ) *Quercusia quercus*

欧州に分布する真性ミドリシジミ族3種のうちのひとつ。欧州産ゼフィルスでは最も広く分布し、平地から低山地にかけての樹林に生息している。中部イタリアでは6月中旬から羽化が始まり♀の産卵期の9月下旬頃まで♂♀ともに見られ、97年には秋に見た個体の方が多かった。この時期は日中に活動し、下草で翅を開いて日光浴をするのが観察できた。♀はいわゆるB型のみである。

<採集例> 1♂ 21-VI ca.4Km ovest di citta di Amelia, TR
1♂ 1♀ 21-IX Rosciano Frazione di Arrone, TR

◎ ベニシジミ亜科

○ ベニシジミ *Lycaenaphleas*

日本産と同種であるが、オレンジ色部分がより発達して輝きが強く見えること、夏に発生する♂があまり黒化しないこと、裏面の褐色味が強いことなどでやや異なった印象を受ける。3月中旬から11月中旬まで荒地や草原に普通に見られ垂直分布の範囲も広い。

<採集例> 1♂ 16-III Borgaria di Nami, TR

○ ムラサキオオベニシジミ *Heodes alciphron goldius*

原名亜種は欧州大陸の低地に広く分布しているが、アルプスやイタリア半島アペニン等の高山草原には表記の亜種が知られている。この亜種は原名亜種に比べ♂の紫色の光沢が少なく、♀は変異が多く中にはチョウセンベニシジミ♀によく似た個体も採れたが(チョウセンベニシジミ新産地発見か?と色めき立ったもの)一般に明るく翅表の黒斑列が鮮明であり、♂♀とも原名亜種と相当外見上の隔たりがる。年1回、夏に成虫が表れる。97年に採集できたものは下記記録が全てである。

<採集例> 1♂ 12-VII M. Cristo Gran Sasso d'Italia, AQ
1♂ 1♀ 12-VII ca.2Km est S.Pietro Gran Sasso d'Italia, AQ
1♀ 19-VII M. Sibillini, Forca Canapine(alt.1500m), PG
1♂ 26-VII M.Rotondo (alt. 1800m) Casali di Ussita, MC
2♀ 2-VIII M. Terminillo (alt. 1800m) Terminillo Rieti, RI

○ メスグロベニシジミ *Palaeochrysophanus hippothoe eurydame*

イタリア半島では主として高山草原に見られ、表記の亜種とされる。西欧の低湿地に生息す

る原名亜種は、♂前翅前縁や後翅半分に紫色の幻光があり♀はベニシジミに似た斑紋をしているのに対し、表記亜種では、♂は紫幻光がなくメタリックオレンジ色、♀はその名の通り黒褐色をしているとされる。しかしながら、下記他全ての採集例で、♂はssp. *eurydame*の特徴であるオレンジ色だったのに対し、♀は原名亜種と同じ斑紋であり、*eurydame*の特徴である前翅が一樣に黒褐色無紋の個体は全くなかった。♂は極めて活発に草原を飛び回り、時には他の♂やヒョウモンモドキ類などを追飛するのが観察でき、オレンジ色の火花が飛び散っているような印象を受ける。

<採集例>	15♂	14-VI	M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI
	10♂	21-VI	同上
	2♂ 5♀	29-VI	Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia AQ
	3♀	5-VII	同上
	2♀	26-VII	M. Rotondo (alt. 1800m) Casali di Ussita, MC

○ フチグロベニシジミ *Heodes virgaureae*

♂は前種に似ているが、本種には後翅裏面に白斑があり容易に区別できる。♀は翅表に黒斑列を持ち黒斑の発達は個体変異が大きい。低地から高地まで分布するとされているが、97年に記録できた場所は全て高山草原とその周辺であった。♂♀とも白い花を中心によく訪花し、集団で吸蜜している場面に出会うこともある。

<採集例>	2♂	5-VII	Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia AQ
	5♂ 1♀	12-VII	同上
	7♂	19-VII	Piano Grande (M. Sibillini, alt. 1400m), PG
	2♂ 1♀	20-VII	M. Terminillo (alt. 1800m) Terminillo Rieti, RI
	1♀	26-VII	M. Rotondo (alt. 1800m) Casali di Ussita, MC
	1♂ 9♀	2-VIII	M. Terminillo (alt. 1800m) Terminillo Rieti, RI

○ クロベニシジミ *Heodes tityrus*

イタリアでは本土とシチリア島全域に広く分布しているが個体数は他のベニシジミに比べ少ないように思える。年2回または3回成虫が出現し、やや湿った樹林周辺の小規模な草原で姿をみることが多い。ベニシジミ類のなかでは最も地味な種で、チラチラとベニシジミ類としては緩かに飛ぶ。

<採集例>	1♂	3-V	Rosciano Frazione di Arrone, TR
	1♂	4-V	Forca dell'Arrone (alt. 510m) Arrone, TR
	1♂	30-VIII	M. Cristo (alt. 1200m) Gran Sasso d'Italia, AQ

◎ ヒメシジミ亜科

○ ルリシジミ *Celastrina argiolus*

全土に広く分布するが、数は余り多くないようでしかも樹上高く翔ぶことが多く普通種の割りには得られる機会が少ないように思える。3月上旬ころから出現し、年2~3回の発生と思われる。

春の個体は、裏面の黒斑列が目だって減退しており、97年の採集品のなかには白色無紋の2

♂が含まれていた。夏期に得られた個体は下記1♀のみであるが日本産夏型のように暗化しておらず、かつ春に低地で得た個体より大型であることから、高地では年1回発生なのかもしれない。

<採集例> 1♂ 9-III Vigne di Narni, TR
 1♀ 16-III Stifone Frazione di Narni, TR
 1♀ 29-VI Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ *Syntarcus pirthous*

カクモンシジミに似た小型のウラナミシジミで、欧州ではウラナミシジミより南に偏って分布しておりイタリアでは全土に生息している。厳冬期を除き年中成虫が発生しているとされるが、目に触れる数が多いのは夏から秋にかけてであり、この時期には極めて普通な種である。♂はネムノキの樹上や低い草上などさまざまな高度で探雌飛翔を行い時に占有行動も見せる。

<採集例> 1♀ 19-X Scavi Caruslae Sangemini, TR

○ ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

前種同様広く分布し、夏以降個体数を増してくる。秋には市街地でも見られる。

<採集例> データを伴う採集・観察例なし

○ *Everes alcetas*

南欧に限って局地的に分布するツバメシジミに似たシジミであり、イタリア半島部では北半分には生息域が知られている。成虫は4月以降2~3回発生するとされる。草原や荒地に見られる。

<採集例> 1♂ 3-V Rosciano Frazione di Arrone, TR
 1♂ 1♀ 4-V vic. di Leazzano Montefranco, TR
 1♀ 17-V vic. di Pietrafitta Castellina, SI

○ *Cupido minimus*

英名 "Little Blue" が示す通り非常に小さなシジミチョウである。低地から高山に至るまでの草原に分布するとされるが、高標高地に多く見られるようである。♂♀とも表面は黒く、♂は基部に青い鱗粉が現れる場合が多い。年1回または2回の発生とされる。

<採集例> 3♂ 3♀ 24-V Valico Torre Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI
 1 ex 31-V Piano Grande M. Sibillini (alt. 1400m) Castelluccio, PG

○ *Cupido osiris*

ヨーロッパでは南欧に限ってみられる種でイタリア半島部では北半分に分布している。成虫は♂♀ともにコウジレイシジミに酷似しているが、裏面の黒斑列が小さく地色の褐色味が少ないことなどで外観上の区別は可能。5月下旬以降1~2回の発生とされ、主に低山地の草原に見られる。

<採集例> 1♂ 3-V Rosciano Frazione di Arrone, TR
 6♂ 2♀ 17-V ca.2Km ovest di Tregole Castellina in Chianti, SI

○ アレクシスカバイロシジミ *Glaucoopsyche alexis*

日本産カバイロシジミによく似た種である。西欧に広く分布し、イタリアでは本土とシチリア島の全域に生息域がある。年1回4月上旬から初夏にかけて長期間にわたり成虫が見られる。道路沿いの草地、林間の空き地、放牧地などさまざまな草原で見ることができる。

<採集例> 1♂1♀ 30-III Poggio Nuovo Guardea, TR
 1♀ 6-IV S. Vito di Ceselli Scheggino, PG
 4♂4♀ 17-V ca.2Km ovest di Tregole Castellina in Chianti SI
 1♂ 31-V 14 Km ovest di Norcia(vic. Biselli), PG

○ *Pseudophilotes baton*

裏面はジョウザンシジミに似た斑紋をしているが、表面は♂は青く、♀は青色鱗粉が散布された黒褐色である。イタリアではシチリア、サルデーニャ両島も含めた全土に分布しているが生息地は比較的極限されている印象を受ける。低地では春と夏に2回、高地では1回の発生とされる。

<採集例> 7♂4♀ 17-V ca.2Km ovest di Tregole Castellina in Chianti, SI
 1♀ 12-VII M. Cristo (alt. 1500m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ ゴウザンゴマシジミ *Maculinea arion*

日本産オオゴマシジミを小型にしたような種で、飛翔している姿は非常によく似ている。イタリア半島部に分布圏が及んでいるが、実際の生息地はかなり極限されているものと思われる。97年に記録できた所はいずれも標高900m以上の高原の放牧地であった。個体変異が著しい種である。

<採集例> 8 ex 25-V i Prati (alt. 1000m) Stroncone, TR
 3 ex 7-VI Piano Grande (alt. 1400m) M. SibilliniCastellucio, PG
 11ex 8-VI i Prati (alt. 1000m) Stroncone, TR
 2 ex 14-VI M. Terminillo (alt. 1300m) Terminillo Rieti, RI

○ タイリクミヤマシジミ *Lycaeides idas*

ヨーロッパではミヤマシジミより広く分布し地理的変異が顕著な種とされる。イタリア本土では半島南部を除き広範囲に生息地が知られており、低地で2回、高地で1回成虫が発生する。ミヤマシジミとの区別が極めて難しいうえ混棲しているケースが多く注意が必要である。

<採集例> 2♂ 30-VIII M. Franco (alt. 1300m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ ミヤマシジミ *Lycaeides argyronomon*

欧州での生息域は前種より極限されているが、イタリアではより広く分布しており半島全域に及んでいる。成虫は5月以降2回出現するとされる。一般に前種より大型の個体が多いといわれる。

前種ともども、97年には♀を得ることができなかった。

<採集例> 4♂ 18-V ca. 1Km sud di Stazione di Piediluco Terni, TR

1 ♂ 8 - VI vic. di Stroncone, TR

○ ハマベシジミ *Aricia agestis*

イタリア全土に広く分布し、主に低地の草原に見られる。小型のシジミである割りには活発な蝶で♂は占有行動を示すことがあり、他の♂や他種個体を追飛するものが見られる。4月以降2~3回成虫が発生する。

<採集例> 1 ♂ 26 - IV Lugnano in Teverina, TR
 1 ♀ 10 - V Cottanello (alt. ca. 550m), RI
 1 ♂ 28 - VI Nera Montoro Nami, TR

○ *Aricia artaxerxesallous*

前種によく似ているが、♂♀ともに翅表の橙色斑の発達が弱いこと、翅表裏の地色の相違で区別するのはさほど困難ではない。イタリアでは内陸のアルプス周辺と半島中部の山岳地帯に分布は限られ、中部では主に高山草原に生息している。年1回夏に出現し、高原を敏速に飛び回る。

<採集例> 3 ♂ 29 - VI Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
 8 ♂ 2 ♀ 12 - VII 同上
 3 ♂ 19 - VII M. Sibillini Castelluccio (alt. 1400m) Norcia, PG

○ コウジレイシジミ *Cyaniris semiargus*

欧州に広く分布する種で、イタリアにおいても普遍的な分布をしている。低地から高山草原に至るまで広範囲の草地に見られる。年1回、夏に成虫が出現する。

<採集例> 5 ♂ 25 - V i Prati Stroncone (alt. ca. 1000m), TR
 4 ♂ 2 ♀ 14 - VI M. Terminillo (alt. 1400m) Terminillo Rieti, RI

○ ヒメシジミ *Plebejus argus*

日本産と異なり多化性で、第1化は低地では5月上~中旬から出現する。半島部ほぼ全域のヒースなどの草原に生息し、高山草原にはしばしば多産する。

<採集例> 1 ♂ 11 - V ca. 1Km sud di Stazione di Piediluco (FS) Terni, TR
 7 ♂ 1 ♀ 24 - V Labro (alt. ca. 630m), RI
 1 ♂ 1 ♀ 21 - VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI

○ ウスルリシジミ (イカロスシジミ) *Polyommatus icarus*

英名 "Common Blue" とされるように、欧州では最も普通に見られるシジミチョウのひとつで、低地から高山帯に至るまでの草原に普遍的に分布している。人為的環境にも適応している普通種ではあるが新鮮な♂の青い翅表はなかなか美しいし、♀の青藍色鱗粉が発達したタイプ f. *caerulea* も収集意欲を刺激する。成虫は3月下旬から11月中旬頃まで連続的に見られる。

<採集例> 2 ♂ 6 - IV S. Vito Ceselli di Scheggino, PG
 2 ♂ 2 ♀ 24 - V Labro (alt. 630m), RI
 1 ♂ 30 - VIII M. Cristo (alt. 1300m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ ヒメウスリシジミ *Polyommatus eros*

欧州ではピレネー、アルプス、バルカン半島の高地とイタリア半島中部の山岳地帯にのみ知られる高山蝶である。アペニン山脈では、ピレネー・アルプスより低緯度であるのに逆に垂直分布下限が低く標高1,500mくらいから分布している。♂は翅表の美しいスカイブルーを誇示するかのよう、草原を敏速に飛び回る。♀は前種同様、典型的なヒメシジミ類のタイプの他に青藍色鱗粉が非常に発達したタイプ *f. caerulescens* が知られるが、97年に得た個体は全て通常タイプであった。

<採集例>	10♂	29-VI	Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
	4♂ 1♀	12-VII	M. Cristo (alt.1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
	2♂	20-VII	M. Terminillo (alt.1800m) Terminillo Rieti, RI
	1♂ 3♀	26-VII	M.Rotondo (alt.1800m) Casali di Ussita, MC

○ *Agrodiaetus thersites*

♂♀ともに外見は属を異にするウスリシジミに大変よくにている。区別点は①前翅裏面中室内に黒斑がない(ウスリシジミは通常はある)、②前翅裏面の黒斑列がきれいな円弧状(ウスリシジミはジグザグ)、③♂翅表はより紫味がつよく深い色調であること、で手にとって詳細に見れば外見上の区別は可能である。イタリアではウスリシジミとほぼ同じ分布域に生息しているが、全ての観察地で採集して確認したわけではないが、より局地的で数も本種の方が少ない印象を受ける。

<採集例>	2♀	4-V	vic. di Leazzano Montefranco, TR
	3♂	17-V	ca.2Km ovest Tregole Castellina in Chianti, SI
	1♂ 1♀	7-VI	Piano Grande M. Sibillini (alt. 1400m) Castelluccio, PG
	1♂ 1♀	30-VIII	M. Cristo (alt. 1200m) di Gran Sasso d'Italia, AQ

○ *Agrodiaetus damon*

欧州ではかなり分布が極限されるシジミで、大きさ色調における地理的変異もかなり顕著な種とされる。イタリアではアペニン山脈中部を中心に、石灰質山地の亜高山帯に生息地が知られている。♂成虫はスカイブルーの翅を輝かせて日当たりのよい草原を敏速に飛びまわる。♀は97年シーズンにはついに見ることができなかった。

<採集例>	3♂	12-VII	M. Cristo Gran (alt. 1300m) Sasso d'Italia, AQ
	10♂	19-VII	vic. diPiano Grande (alt. 1400m) di Monti Sibillini, PG
	1♂	26-VII	M.Rotondo (alt. 1800m) Casali di Ussita, MC

○ *Agrodiaetus dolusvirgilius*

前種よりさらに分布が極限されるピレネー、南仏の一部とアペニン特産の種である。地理的変異が著しく、かつてはアペニン産は別種とされた。原名亜種の♂翅表が青いのに対し、表記亜種♂は基部付近の翅脈沿い以外は銀灰色をしている。アペニン産個体も産地毎に微妙な変異があるとされる。かなりの珍種なのか、97年には下記2例のみしか記録できなかった。その飛翔は敏速であった。

- <採集例> 1♂ 19-VII M. Ventosola (alt.1300m) Monti Sibillini,PG
 1♂ 26-VII vic. di Casali (alt. 1300m) Ussita, MC

○ エッシャーヒメシジミ *Agrodiaetus escheri*

南欧と北アフリカ・モロッコの山地にだけ分布する種でイタリア半島部では中部に生息域がある。アドニスシジミに似ているが、前翅裏面中室に黒斑がないことで区別が可能である。出現期間も年1回で、アドニスシジミの第1化がほとんど姿を消した頃に新鮮な♂が得られた。97年は下記の2♂しか記録できなかったが、ともに石灰質山地の疎林を交えた草地での採集例である。

- <採集例> 1♂ 31-V 14 Km ovest di Norcia(vic. Biselli), PG
 1♂ 8-VI i Prati di Stroncone, TR

○ *Meleageria daphnis*

イベリア半島北部からアルプスを南回りにオーストリアにかけての地域以南に分布圏をもつ種で、イタリア半島では南端部を除いて生息地があるが局地的な種のようなものである。疎林を交えた草地に多く、時に道路沿いにも見られる。♂は水色も鮮やかな立派な大型個体が多いが、♀は♂に比べ小型で外縁部と翅脈沿いに黒褐色の部分が広がっている。青色部を全く欠く♀ *f. stevenii*も場所により稀ではないとされるが、下記採集例の2♀は基本型であった。年1回夏に成虫が出現する。♂♀ともに訪花性が強いが、♂は路上で吸水するものが見られた。

- <採集例> 1♂ 5-VII Sella di Corno (alt. 1000m) Scoppito, AQ
 5♂ 12-VII M. Cristo Gran (alt. 1300m) Sasso d'Italia, AQ
 4♂ 2♀ 26-VII M. Rotondo (alt. 1600m) Casali di Ussita, MC
 1♂ 10-VIII i Plati di Stroncone (alt. 900m), TR

○ ドリラスヒメシジミ *Plebicula drylas*

ヨーロッパ大陸の南半分から小アジアにかけて分布する種で、イタリア半島では南端部を除くほぼ全域の標高約1,000m以上の草原に生息している。♂のブルーの鮮やかさはアドニスシジミと双璧で敏速に草原を飛び回る個体はよく目立つ。♀はハマベシジミを一回り大きくしたような翅表をしている。♂♀とも裏面外縁部の白さが際立った特徴になっている。低地では2回、高地で1回の発生とされる。

- <採集例> 4♂ 25-V i Prati Stroncone (alt. 1000m), TR
 2♂ 21-VI M. Terminillo Terminillo Rieti, RI
 11♂ 29-VI Campo Imperatore (alt. 1600M) Gran Sasso d'Italia, AQ
 1♂ 3♀ 26-VII M. Rotondo (alt. 1800m) Casali di Ussita, MC
 1♀ 2-VIII M. Terminillo (alt 1800m) Terminillo Rieti, RI

○ アドニスシジミ *Lysandra bellargus*

♂翅表のブルーの美しさは欧州産ヒメシジミ類のなかでも際立っており、加えて色調に個体変異があり、♀も通常ヒメシジミタイプの他に青色鱗粉が非常に発達したタイプ *f. cernus* が知られ、採集意欲をそそる種である。欧州からヨーロッパロシア、イランあたりまでに分布圏

があり、イタリア半島では最南端部を除くほぼ全域の石灰質草原に限って生息している。アルプス以北の各国ではシバ型草原との結付きの強い種のため、開発による打撃を大きく受けているといわれるが、中部イタリアでは広大なシバ型草原のみならず、オリーブ畑内の空き地、林間の小規模な草地などにも見られる。年2回、5月と8月に成虫が発生するが季節変異はないようである。

<採集例>	5♂	3-V	Rosciano Frazione di Arrone, TR
	8♂ 5♀	17-V	ca.2Km ovest di Tregole Castellina in Chianti, SI
	13♂ 1♀	25-V	i Prati Stroncone (alt. 1000m), TR
	1♂	9-VIII	Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI
	2♂	30-VIII	M. Franco (alt. 1200m) di Gran Sasso d'Italia, AQ
	1♂	31-VIII	Valnerina, Confine di Provincie TR/PG

○ コリドンヒメシジミ *Lysandra coridon*

欧州のシジミを代表する美しい大型種である。分布圏は前種とよく似ており、同じく石灰質の草原との結付きが強いが、南限がより北方に、生息高度がより高地に偏っておりかつヨーロッパのみに限定されている。地理的変異が著しい種で分布圏の西の末端に当たるスペイン北部では複雑な変異が知られている。イタリア半島南部やバルカン半島でも一定の変異があるとされる。中部イタリア産の♂は、欧州の大部分の地域産と同じく真珠光沢を帯びた淡い水色をしているが、稀に青みの強い個体 *f. polonus* が得られることがあり、これは前種との自然雑種と推定されている。♀は外縁部の橙色斑の発達の程度に個体変異が大きく、さらに全面が水色を帯びた *f. syngrapha* が地域により異なる頻度（アルプスでは稀、スペインのある地域では逆に通常型の方が少ない等）で出現するとされているが、97年に得られた♀にはこのタイプは見られなかつた。裏面の斑紋が乱れる個体が特に早に多く見られる。年1回6月下旬から9月上旬にかけて長期間に渡り出現する。

<採集例>	1♂	29-VI	Campo Imperatore (alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
	2♂	13-VII	M. Terminillo (alt.1700m) Terminillo Rieti, RI
	5♂ 16♀	2-VIII	同上
	3♂	30-VIII	M. Cristo (alt. 1200m) di Gran Sasso d'Italia, AQ

(なかむら ひでお Via 20 Settembre 109 05100 Terni, Italy)

.....

97年中部イタリアで出会った蝶たち (その3)

中村 英夫

.....

筆者は1996年12月から、中部イタリア・ウンブリア州テルニ市に住むようになり、中部イタリアの蝶を採集する機会に恵まれている。1997年の1シーズンにウンブリア州および近隣の中部イタリア4州（ラツィオ、トスカーナ、マルケ、アブルッツォ、いずれも筆者自宅から2時間圏内）で採集観察し同定ができた蝶120種弱について、コメントをつけてまとめつつある。前回のシジミチョウ科に引き続きテングチョウ科及びタテハチョウ科を報告する。今回はジャノメチョウ科を予定している。

なお、採集・観察地の県（Provincia）名の略号については第1報を参照されたい。

◎ テングチョウ科

○ テングチョウ *Libythea celtis*

イタリア全域に分布している。主として低地の雑木林周辺に生息しているが、越冬個体は道路沿いや工場敷地内など開けた場所に姿をみせることがある。3月頃に多くの越冬個体を観察できたが、新成虫を目にする機会は極めて稀で、97年には新成虫を得ることができなかったが、おそらくその時期に低地での採集活動を欠いたことが主因と思われる。

<採集例> 1ex 8-III Vigne di Narni, TR (越冬個体；採集後リリース)

◎ タテハチョウ科

○ ミナミシータテハ *Polygonia egea*

欧州では仏伊国境のフランス側より東南部に限って分布し小アジアからイランまで分布域がある。イタリアでは半島の大部分に分布し、シータテハがより郊外や山地に多いのに対し、本種は逆に市街地や人為的環境により適応しているような印象を受ける。したがって観察例は全て採集時ではなく、アッシジの街中やローマの遺跡を歩いていた折とか運転中の車の窓越し等であり、97年は実際に手にすることができなかった。89年に採集した際もナポリ近郊の遺跡だったことを思い出す。

<採集例> データを伴った採集・観察例はなし

○ シータテハ *Polygonia c-album*

前種とは異なり欧州に広く分布し、イタリアでも分布圏は全土に及んでいる。前種の見られないかなり標高の高い山でもしばしば見られる。越冬個体は比較的きれいなものが多い。

<採集例> 1♂ 8-III Vigne di Narni, TR (越冬個体)

○ ヨーロッパアカタテハ *Vanessa atalanta*

日本産アカタテハの置換種で、欧州に広く分布しイタリアでも全土に生息している。低地か

ら高地まで広い範囲に見られ、市街地でも稀ではなくローマの街中を悠然と翔ぶ姿をよく目にする。

成虫は真冬でも暖かい日には活動する。中部イタリア低地では5月上旬から新成虫が現れる。

<採集例> 1♀ 14-VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI

○ ヒメアカタテハ *Cynthia cardui*

イタリア全域に見られるが、他の全ての欧州諸国同様、土着種ではないとされている。3月中旬頃から飛び古した個体を市街地でよく見掛けるが北アフリカからの飛来個体であろうか？夏には高山帯に姿を見せることもあり、コヒオドシなどに混じって吸蜜しているのを見たことがある。

<採集例> データを伴った採集・観察例はなし

○ ヨーロッパヒオドシ *Nymphalis polychlorus*

日本産ヒオドシチョウによく似た蝶であり習性もほぼ同じのようである。春先の越冬個体は容易に多数を見ることができるとは6月以降に発生する新成虫を目にすることは少ない。97年の新成虫採集は下記の1例のみだった。

<採集例> 1ex 14-VI M. Terminillo (alt. 1400m) Terminillo Rieti, RI

○ キベリタテハ *Nymphalis antiopa*

前種同様イタリアのほぼ全域に分布圏が及んでいる。4、5月頃に越冬個体をよく目にしたが、97年はずいぶん新成虫を見ることができなかった。下記採集例では2～3頭の♂が占有行動をとり占有域に入った他個体を激しく追迫するのが観察できた。越冬個体は日本同様“シロベリタテハ”で、汚損・破損とも著しいものが多かった。

<採集例> 2♂ 3-V Rosciano Frazione di Arrone, TR (越冬個体；採集後リリース)

○ コヒオドシ *Aglais urticae*

北極圏や主な離島を含めた全欧州に分布する種であるが、イタリア中部ではドイツのように市街地で目撃したことはなく、山地から高山帯でのみ見られた。日本産と異なり多化性で第1化の新成虫は5月下旬に早くも出現し、まだ多数生き残っている越冬個体と混飛しているのが見られた。

<採集例> 1ex 24-V M. Terminillo (alt. 1400m) Terminillo Rieti, RI
1ex 13-VII 同上 (alt. 1700m)

○ クジャクチョウ *Inachis io*

前種の見られない低地で観察できるケースも稀ではなく、広く生息しているようである。夏には高山草原に数が多い。飛翔は前種に比べてかなり緩かである。

<採集例> 1ex 22-VI vic. Castelluccio (alt. 1400m) Frazione di Norcia, PG
1ex 29-VI Campo Imperatore(alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ ヨーロッパフタオチヨウ *Charaxes jasius*

欧州では地中海沿いにごく限られた分布域があり、イタリアでは半島西岸とシチリア・サルデーニャ両島の沿岸に分布するとされているが、ウンブリア州のような内陸部でも観察できる。年2回成虫が発生し、8～9月に現れる第2化は大型になる。高所を極めて敏速に飛翔することが多く、97年にはついに成虫を手にする事ができなかった。6月の目撃時には目の前のウバメガシの枝に止まりかけたが、携帯ネットが僅かに届かず採ることができなかった。

<目撃例> 1 ex 21-VI ca. 4 Km ovest di citta di Amelia, TR
2 ex 21-IX vic. di Lugnano in Tiverina, TR

○ ミナミイチモンジ *Limenitis reducta*

イチモンジチョウが半島北半分に分布が限られるのに対し、本種はイタリア全土に生息している。個体数はあまり多くないようであり、また狙って採るような種ではないので普通種のわりには得難い部類に属すると思う。新鮮な個体の青い輝きはなかなか美しい。5月から9月にかけて見られる。

<採集例> 1 ♀ 30-VIII M. Franco (alt. 1200m) di Gran Sasso d'Italia, AQ

○ ウラギンヒョウモン *Fabriciana adippe*

欧州に広く分布し、イタリアではサルデーニャ島（ここではコルシカウラギンヒョウモンが置換種となる）を除く全域に分布している。日本産と異なり、当地では日本のオオウラギン♂に見られるように、♂♀とも多型で、裏面の銀白色斑が明瞭なタイプ *f. adippe* と、銀白色斑が消失する二つのタイプ *f. cleodoxa* と *f. cleodippe* があり、地域により出現頻度が異なるとされる。イタリア半島では主に山地に多く生息し、一般に *f. cleodoxa* が優勢といわれるが *f. adippe* も稀ではない。

<採集例> 2 ♂ 29-VI Campo Imperatore(alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ
2 ♀ 12-VII 同上

○ ニセウラギンヒョウモン *Fabriciana niobe*

イタリアを含む欧州の大部分の地域で前種と分布圏が重複している。前種同様、♂♀とも多型で、裏面銀白色斑が明瞭なタイプ *f. niobe* と銀白色斑が消失するタイプ *f. eris* があり、中部イタリア・アブルッツォ州山地では前種とは逆に銀白色斑型が優勢とされる。前種に比べ、より高標高地に生息域があるが、多くの産地で混棲しており、同定には注意が必要である。

<採集例> 1 ♂ 2 ♀ 12-VII Campo Imperatore(alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ ミドリヒョウモン *Argynnis raphia*

イタリア全土に分布するが、サルデーニャ島およびトスカーナ群島産 (*ssp. immaculata*) は亜種を異にする。また中部イタリアでは、裏面銀白色帯が減退するタイプ *f. anargyria* が知られる他、全域で♀は二型あり通常型のほかに表面地色が暗緑灰色になる *f. valesina* がある。97年には暗化型1♀を目撃できただけで、採集できた個体は全て通常タイプであった。山地に多く見られる。

<採集例> 1 ♀ 14-VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI

1♂ 2-VIII 同上 (alt. 1400m)

○ *Pandoriana pandra*

主として南欧に分布する種で、イタリアでは全土に分布圏が及んでいる。97年に確実に観察できたポイントはカンポ・インペラトーレの高山草原だけであったが、大型ヒョウモン類が多数生息するフィールドでは採集して識別していないので実際はもっと普遍的に見られるのかも知れない。

<採集例> 1♂ 5-VII Campo Imperatore(alt. 1600m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ ギンボシヒョウモン *Mesoacidalia aglaja*

欧州のヒョウモンでは最も広範囲に分布する種で、イタリア全域に生息域がある。イタリア中部では森林限界付近の草原に多く見られる。大型ヒョウモンの中では最も飛翔は緩かにである。

<採集例> 3♀ 2-VIII M. Terminillo (alt. 1800m) Terminillo Rieti, RI

○ ラトニアヒョウモン *Issoria lathonia*

欧州産大型ヒョウモン中唯一多化性の種で、春から晩秋まで長期間成虫が見られる。生息域も低地の荒地から高山草原まで幅広く及んでいる。成虫は意外に敏感で飛び方も敏速である。

<採集例> 1♂ 24-V Valico Torre Fuscello Leonessa, RI
 1♂ 26-VII M. Rotondo (alt. 1800m) Casali di Ussita, MC
 1♂ 5-X vic. Stroncone Citta, Stroncone, TR

○ フタモンコヒョウモン *Brenthis hecate*

コヒョウモンに似た種であるが、裏面亜外縁の2列の黒斑列が目立ち他のコヒョウモン属と容易に区別できる。西欧では生息域が限られており、イタリア半島部では局地的で稀種とされる。97年に得たものは下記採集例が全てである。場所はモンティ・シビリニ国立公園内の高山草原である。

<採集例> 12♂ 22-VI Monti Sibillini Piano Grande (alt. 1400m) Norcia, PG
 1♀ 19-VII 同上

○ *Boloria pales palustris*

欧州ではアルプス、ピレネーなどを中心に分布する高山蝶である。イタリア半島ではアルプス南部産と同じ表記亜種が中部アペニン山脈の限られた高山にのみ生息するとされる。半島部に分布する高山性の小型ヒョウモンは本種が唯一のものである。97年の記録は下記1例だけであった。

<採集例> 1♀ 3-VIII M. Portella (alt. 2100m) Gran Sasso d'Italia, AQ

○ ミヤマヒョウモン *Clossiana euphrosyne*

欧州産小型ヒョウモンでは最も広く分布する種で、イタリアでも本土全域とシチリア島から記録されている。低地では4、5月に第1化、7、8月に第2化の成虫が発生するのに対し、

高地では6, 7月に1回だけ発生するとされる。低山地の明るい樹林の周辺草原に多く見られる。

<採集例> 3♂ 3-V Forca dell'Arrone (alt.510m)Arrone, TR
 2♂2♀ 24-V Labro (alt. 630m), RI
 1♂ 7-VI Piano Grande (alt. 1400m)Castelluccio di Norcia, PG

○ ムラサキヒメヒョウモン *Clossiana dia*

前種よりやや分布が極限され、イタリア半島では北半分にしかなんておらずラツィオ・アブルツォ両州の北部が南限と思われる。ウンブリア州でも分布末端に近いから、個体数は前種に比べ遥かに少ないようであり下記が97年の全ての採集記録である。飛行中は前種との識別は困難であるが、一般に本種の方が小型で飛び方もやや緩やかなように思える。多化性で前種と同じような環境に生息している。

<採集例> 2♂ 5-IV Castel dell'Aquila Avigliano Umbro, TR
 1♀ 3-V Forca dell'Arrone (alt.510m)Arrone, TR

○ モトヒョウモンモドキ *Melitaea phoebe*

遥か昔には日本産ヒョウモンモドキの原名亜種と考えられていただけに表裏とも酷似している。欧州には広く分布し、イタリアでも本土全域とシチリア島に分布域があるが、他のヒョウモンモドキ類に比べて個体数は少ないようで、97年の記録は下記が全てであり♀を得ることはできなかった。ドイツなどでは日本のヒョウモンモドキ同様、減少が著しく生存基盤の脆弱な種と見做されている。低地では多化性で、成虫は4月下旬以降2~3回の発生をされるとされる。

<採集例> 1♂ 3-V Forca dell'Arrone (alt.510m)Arrone, TR
 2♂ 30-V Nera Montoro di Narni, TR
 1♂ 10-VIII i Prati di Stroncone (alt. 1050m), TR

○ クロテンヒョウモンモドキ *Mellitaea cinxia*

前種に似た分布パターンを持つ種である。イタリア中部では個体数も少なくなく、より一般的な種である。低地から亜高山に至る草原で姿を見ることが出来る。低地では年2化、高地では1化といわれ、成虫は低地では5月上旬から現れ、草上低く敏速に飛行する。

<採集例> 3♂ 3-V Forca dell'Arrone (alt.510m)Arrone, TR
 1♀ 16-V Nera Montoro di Narni, TR
 1♂ 7-VI Piano Grande (alt. 1400m)Castelluccio di Norcia, PG

○ ヒメフチグロヒョウモンモドキ *Mellitaea didyma occidentalis*

イタリア産ヒョウモンモドキ類では最も普通な種で、ローマ郊外の低地からモンティ・シビリニ国立公園の高山帯まで広範囲の垂直分布域がある。低地では大型の第1化個体が5月上旬までには現れ、8月から9月にかけて小型の第2化成虫が出現するが、時に著しく矮小化したものが見られる。高地帯では数が少なく7月に大型の個体が見られるが、年1回の発生と思われる。

<採集例> 2♂ 10-V Rosciano Frazione di Arrone, TR

2♂ 1♀	17-V	ca.2Km nord Panzano di Greve in Chianti, FI
1♂	12-VII	ca.2Km est S.Pietro Gran Sasso d'Italia, AQ
1♀	19-VII	vic. Castellucio (alt. 1400m) Frazione di Norcia, PG

○ *Mellictaa trivialis*

前種に酷似した種であるが、やや小型で裏面後翅外縁部の黒斑列を構成する斑紋が三角形（前種は丸い点）であることなどで外観上の区別は可能である。前種に比べイタリアでの分布域は極限され、半島部では中部アペニン山脈に生息している。97年に記録できたのは下記1例のみであった。

<採集例> 1♂ 11-V M. Terminillo (alt. 1000m) Terminillo Rieti, RI

○ モトコヒョウモンモドキ *Mellicta athalia celadussa*

かつて日本産コヒョウモンモドキと同種とされていた種 *athalia* のアルプス南麓より南側に分布する亜種で、原名亜種の分布域とはアルプス山脈で隔てられている。イタリア半島部では全域に分布圏が及んでいるが、山地に生息している場合が多いと思われる、97年に実際に採集できた場所は全て高山草原であった。成虫は低地では5月から8月までの間に2回発生するとされる。

<採集例> 1♂ 12-VII ca.2Km est S.Pietro (alt. 1300m) Gran Sasso d'Italia, AQ
1♂ 1♀ 26-VII M. Rotondo (alt. 1800m) Casali di Ussita, MC

○ *Mellicta varia*

アルプスとアペニン特産の高山蝶で、アルプスでは標高1800m以上の高山帯の低茎草原に生息しているが、アペニンでは分布下限が低く、まれに標高1400m程度の生息地もあるとされる。アルプスでは紛らわしい近似種と混棲しているが、アペニンには他の似た種はいない。年1回の発生。

成虫は草原を低く活発に飛び回り、大型のベニシジミ類と追飛しあうシーンも見られた。

<採集例> 9♂ 14-VI M. Terminillo (alt. 1700m) Terminillo Rieti, RI
3♂ 22-VI vic. Castellucio (alt. 1400m) Frazione di Norcia, PG

○ チョウセンヒョウモンモドキ *Eurodryas aurina*

イタリアでは欧州大陸の他の分布圏につながる内陸部に多い種で、半島部では中部アペニンに孤立した分布圏がありつつ稀な種とされている。中部イタリアでは5月中旬頃から6月にかけて年1回成虫が出現するようで、比較的湿潤な山地草原に見られる。飛び方はヒョウモンモドキ類としてはかなり敏速な部類である。下記フシッコでの採集品の中に穴開き個体が1頭含まれていた。

<採集例> 1♂ 11-V M. Terminillo (alt. 1400m) Terminillo Rieti, RI
29ex 24-V Valico Torre Fuscello (alt. 1000m) Leonessa, RI
3♂ 2♀ 7-VI Piano Grande (alt. 1400m) M. Sibillini Castellucio, PG

(なかむら ひでお Via 20 Settembre 109 05100 Terni, Italy)

.....
1995年度アカボシゴマダラ発生について

矢野高広

.....
事の始まりはαさんとの電話に始まる(注1)。7月10日すぎ、彼との電話で以下のような情報を得た。

1. 秋ヶ瀬で中学生がアカボシゴマダラをとったらしい。
2. その時会った某氏がその中学生に「僕はここに幼虫を放している。ここは僕の養殖場だ」と言った。
3. 某氏とはおそらく埼玉在住の人間である。
4. この話は彼の友人のトンボ屋から聞いた。
ということである。

いくらなんでもアカボシゴマダラでは「眉唾物の話だなあ」と思っていたのだが、7月15日に談話会の会員のM氏より似たような話を聞いた。その内容は、

1. 石神井公園にマルタンヤンマを見に行った友人が小学生に会った。
2. 本人は秋ヶ瀬公園でアサギマダラを採ったとあって、アカボシゴマダラを見せた。
というものである。

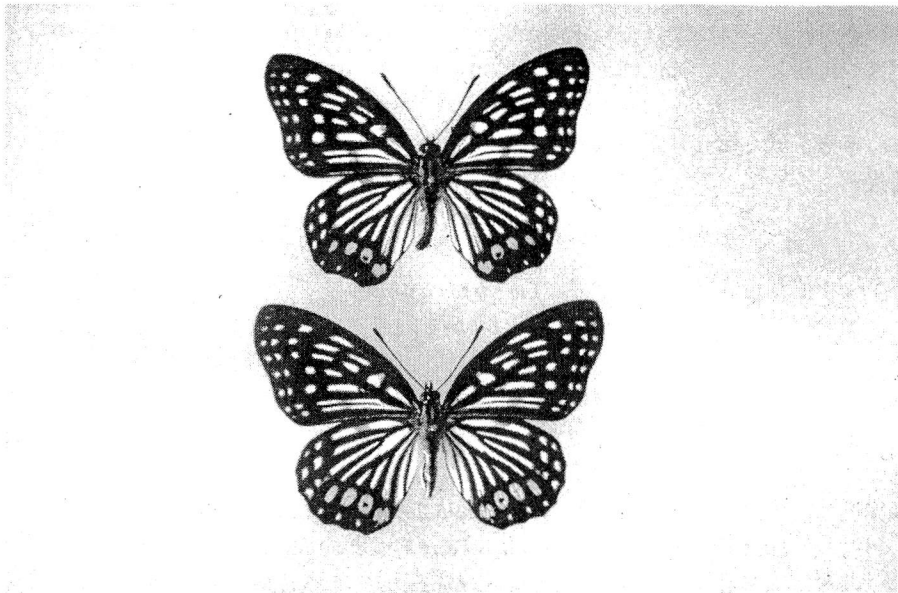


写真 アカボシゴマダラの雌雄

以下私が埼玉県で調査を行った記録を示す。

- ・7月16日 浦和市秋ヶ瀬公園 気温29℃ 晴時々曇
ピクニックの森駐車場脇の林にて、*Hestina*幼虫6幼採集。内若齢(2齢?)1幼が*H.assimilis*(羽化確認♀)。奄美諸島の亜種とは明らかに違う顔をしており、大陸に分布する原名亜種と思われる。
 - ・8月30日 戸田市道満公園 気温32℃ 晴
ヤクルトスワローズ練習場横の林で1個体目撃(おそらく雌)。同場所ではゴマダラチョウは目撃できなかった。
 - ・8月30日 朝霞市内間木 気温32℃ 晴
送電線鉄塔付近の林(エノキが主体)で2度目撃も採集ならず。同一個体かもしれない。
 - ・9月30日 戸田市道満公園 気温20℃位 曇
公園入り口の堤防脇のエノキにて1幼(羽化確認♂)。他、アカボシ幼虫と思われる幼虫が2個体葉上で中節付近を黒変させて死亡。ゴマダラチョウの幼虫は複数ついていたが、この黒変死亡幼虫も1個体見た。
 - ・12月16日 浦和市秋ヶ瀬公園 気温10℃ 晴
ピクニックの森の可能な限り全てのエノキを調べる。樹皮上は地上高2m位までできる限り見たがアカボシは発見できなかった。ゴマダラチョウ幼虫の個体数も例年よりかなり少ないように感じた。
ゴマダラチョウ幼虫78個体(内樹上4個体)。アカボシゴマダラ幼虫0個体。
 - ・12月16日 戸田市道満公園 気温10℃ 晴
9月30日に調べたエノキの周辺を調べるがアカボシは発見できなかった。このとき見つけたゴマダラチョウ幼虫24個体を持ち帰ったがその約半数の幼虫がハエに寄生されていた。
- 以上が私が調べたアカボシゴマダラ関係の全てである。放蝶(放幼?)と思われるアカボシゴマダラは、1995年夏には埼玉県浦和市周辺で若干分散をしたものと思われる。秋ヶ瀬公園では記録にはでてこないがまとまった個体数が発生していたようであるが、越冬はできなかったようだ。秋ヶ瀬公園ではその後も越冬幼虫を調べに行ったが、ゴマダラチョウの幼虫までもが大量に採集された形跡があり、翌1996年春の第一化の成虫の個体数は極端に少なかった。戸田市及び朝霞市においても翌年何度か調査をしたが、成虫は見られなかった。移入個体が少なかったせいなのだろうか、その理由はわからない。荒川を挟んだこの両地域は元々寄生の激しい地域で越冬幼虫の半分以上が寄生されている年が多いことを付記しておく。

最後に反省と要望を。

1. 「新しい種の移入」という絶好の機会に不十分な調査しかできなかったことが悔やまれる。

2. 「こんなつまらないものを採りにいってしまった」からといって恥ずかしがらずに記録を出してほしいと思う。
3. どうせ放すならクロオオムラサキにしてほしかった。勿論これは違法であるし、蛇足でもある。
以上

注1：文章の中の人名が仮称となっているのは、情報提供本人の希望による。

(やの たかひろ 〒174 板橋区中台3-27 M409)

.....

コオイムシを両神村で採集

大熊 光治

.....

埼玉県内の池沼にコオイムシが生息していた情報はあるが、文献での記録は少ない。両神村在住の黒沢絢也君(小学校5年生)が自宅近くで、1998年5月20日にコオイムシを採集した。

黒沢君の父の好意で、このコオイムシを得ることができた。同定した結果、コオイムシであることが判明したので報告する。なお、個体の形態は体長19.0mm、体幅10.7mmである。

オオコオイムシとコオイムシの体長/体幅を比較してみると、オオコオイムシは1.9でコオイムシは1.7である。両神村の個体の体長/体幅は1.7でほぼ卵形であった。また、両神村の個体の腹部第7腹板は三角形であり、オオコオイムシの明らかに短い第7腹板と異なる。

現在、このコオイムシを埼玉県立北教育センターで飼育展示中である。

(おおくま みつはる 加須市南町6-54)

・・・・・・・・・・・・・・・・

日高市におけるタカハシトゲゾウムシの採集例

新井志保・豊田浩二

・・・・・・・・・・・・・・・・

Dinorhopala takahashii (KONO) タカハシトゲゾウムシはサクラ類の生葉より得られるゾウムシ類で、幼虫がサクラやスモモの潜葉虫であることが既に知られているが、全国的にも珍しくあまりお目にかかれない種である。埼玉県における本種の記録は大野(1957)の日高町(現在の日高市)日和田山における記録が最初のもので、この記録は後に斎藤(1978)や斎藤(1991)の中でも引用されている。その後、大野(1964)は近隣の毛呂山町鎌北湖からも本種を記録したが、以後本種の県内における記録は無いようである。いずれにしても、県内ではこの近辺にて極わずかな記録があるのみの稀種であるといえよう。

筆者らは日高市日和田山にて甲虫類の調査を行った際、本種をヤマザクラの若葉より採集することが出来た。東北地方では5月下旬に採集した経験があり、他の文献記録でもほぼ同じ時期であることから、サクラの芽吹きが早い関東では4月頃が成虫の得られるシーズンであろうと思われる。なお、本種はかなり遠くからでも人の気配を察して落ちてしまうが、採集される機会が少ない理由のひとつと言えよう。こうしたことに気を付けながら探せば今後も記録が増えるであろう。以下にデータを示す。

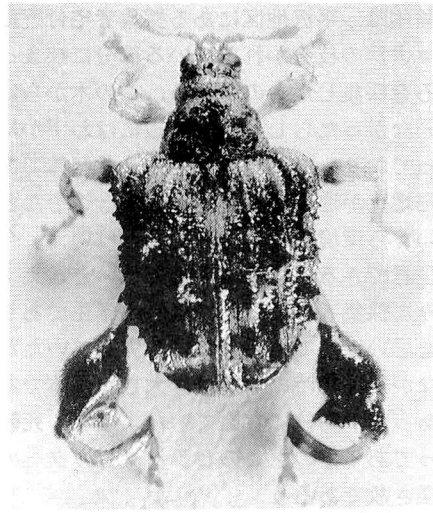


図. 日高市日和田山産タカハシトゲゾウムシ

1頭, 19-IV-1998, 埼玉県日高市日和田山,
豊田採集・新井保管(図)。

参考文献

- 大野正男(1957). タカハシトゲゾウムシについて. 新昆虫, 10(1): 46.
 大野正男(1964). 奥武蔵の昆虫たち. 奥武蔵, (100): 32-41.
 斎藤良夫(1978). 埼玉県の甲虫. 埼玉県動物誌(埼玉県教育委員会) : 213-258.
 斎藤良夫(1991). 甲虫類. 日高町史自然史編(日高町教育委員会) : 506-509.
 小田 博(1998). ゾウムシ科. 埼玉県昆虫誌Ⅲ(埼玉昆虫談話会) : 306-318.

(あらい しほ 〒350-1227 日高市女影4 4 7-1)
 (とよだ こうじ 〒355-0221 比企郡嵐山町菅谷6 8 6)

.....

嵐山町平沢にて得られたヒラタクワガタ

豊田浩二

.....

嵐山町菅谷地区で得られた*Serrognathus platymelus pilifer* ヒラタクワガタについては既に報告したが、今回隣接する平沢地区において得られた個体を検することが出来た。本種の比企地域における記録はほとんど皆無の状態であるので、数少ない例として報告する。

1♂, VIII-1994 (上旬), 埼玉県嵐山町平沢,
佐藤 直 採集・筆者保管 (図)。

この個体は、平沢地区にある採集者宅付近にて、大きなコナラの枝分かかれしている部分に挟まっていたところを採集したものである。この木からは樹液は出ていなかったらしいが、周辺にはわずかに雑木林が残っており、この付近で発生した個体であろう。同地は宅地化が進み雑木林も減少の一途をたどっている。いくら環境の変化に強い種とはいえ、今後同地にて生息できる可能性は極めて低いと言えよう。

ちなみに採集者の佐藤氏は当時小学生であり、採集年月を思い出してもらうのに苦労していただいた。しかしながら採集時の様子は、大きな個体であったこともあってか明確に覚えていたようで、死骸を大切に持ってあったのもこのヒラタクワガタへの思い入れの深さ故であろう。

末筆ながら、貴重な標本と情報を御提供いただいた嵐山町の佐藤 直 氏とご家族の方々に厚く御礼申し上げます。

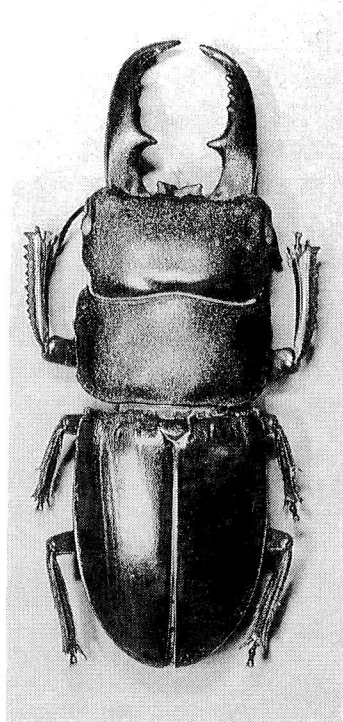


図. 平沢地区にて得られた♂個体

参考文献

- 豊田浩二 (1998) . 嵐山町にてヒラタクワガタを採集. 寄せ蛾記,(85): 2393.
長畑直和 (1998) . クワガタムシ科. 埼玉県昆虫誌Ⅲ (埼玉県昆虫談話会) :159-165.

(とよだ こうじ 〒355-0221 比企郡嵐山町菅谷686)

.....

ハルゼミとエゾハルゼミの記録

..... 渡邊 光行

1996年に確認したハルゼミと1998年に確認したエゾハルゼミについて、特記したい記録があるので報告します。

・ハルゼミ

- 場所 : 滑川町 武蔵丘陵森林公園
- 個体数 : 7 抜け殻 (5 殻は遊戯広場・2 殻は記念広場付近のアカマツ林にて)
多数の鳴き声 (上記2カ所と城口湖付近にて)
- 年月日 : 1996年6月2日
- 採集者 : 渡邊 光行

・エゾハルゼミ

- 場所 : 両神村 両神山
- 個体数 : 2 抜け殻
多数の鳴き声 (全山)
- 年月日 : 1998年6月1日
- 採集者 : 渡邊 光行
- 状況 : ほぼ全山、蟬時雨ではありませんが、継続して聞く事ができました。

(わたなべ みつゆき 〒336 浦和市瀬ヶ崎2-14-8-105)

.....

熊谷市におけるオオワラジカイガラムシの家屋侵入2例

..... 江村 薫

熊谷市内でオオワラジカイガラムシが家屋内に侵入した2つの事例について報告する。

- 1) 1989年1月26日のことである。当時、埼玉県病害虫防除所に臨時職員として勤務していた石黒さん(現在は退職)が、熊谷市内の友人から依頼されたとのことで、小さなムシを持参した。その友人は、「ブラウスの縫製をしており、このムシが1月20日頃から室内に発生しているため、ムシがつぶれて白い布地にシミがついて、困惑している」とのことであった。
検討した結果、カイガラムシの幼虫とわかり、発生時期等からオオワラジカイガラムシの1齢幼虫と推定した。さらに、発生地状況を問い合わせた結果、「前年の秋、家の周囲の樹木を伐採。カシ類が主体」とのことから、形態的検討はしていないものの、本種であると断定し、カシ類に産卵されていた卵から孵化した幼虫が、食べ物を求めて移動したと推定した。
- 2) 1998年2月4日、熊谷市久保島の県農業試験場の庶務室にて、黒い小さな動くムシ1個体を職員が押さえた。筆者が呼ばれて、ムシの名前と問題性を問われた。部屋の窓に隣接してマテバシイが植栽されており、本種の1齢幼虫が移動したと判断した。
マテバシイは前年に剪定はしているものの、枝を集積しているわけでもない。生きている樹木からの移動も存在するのかと興味を持っていたところ、その後、庭先のマテバシイでは3月に入って本種の大発生が生じた。その頃、ヒヨドリが連日飛来していたが、甘露を求めてなのか、虫そのものを求めてなのか、観察していない。なお、1998年は暖冬年でもあった。

本種は12月中旬から1月にかけて孵化し、餌を求めて歩き回ることが知られており(河合, 1972, 1982), 今回の熊谷での2つの事例、特に1998年は暖冬年であったことを考慮すると、やや遅い孵化のように思える。

参考文献

- 河合省三 (1972) オオワラジカイガラムシの生態, インセクトリウム 9,6-9.
- 河合省三 (1982) オオワラジカイガラムシの交尾, インセクトリウム 19,142.

(えむら かおる 〒346 久喜市東3-32-18)

.....

1997年埼玉県でのトンボ記録

喜田 英人

.....

1997年に県内で観察したトンボのうち、生態的に興味深いと思われるものを中心に報告する。
なお、全て目撃（撮影）記録である。

本文に入るに先立ち、秩父市栃谷の池に案内していただいた松崎 雄一氏に紙上を借りて感謝
申し上げます。

モノサシトンボ *Coperla annulate* Selys

秩父郡皆野町国神 29. VI. 1997 交尾、産卵 多数観察

本種は普通種でありながら、配偶行動などの詳しい観察例が少ない。
当日は、天候はくもりであったが、早朝から♂の探雌飛翔が観察され、午前7時30分にはすでに交尾態も見られた。同属のオオモノサシトンボでも、東京都葛飾区で'95年7月20日 午前6



写真1 オニヤンマの交尾。寄居町折原（1997年8月30日）
約4mの枝で交尾（車の上に昇って撮影）

時 15分に連結態、7時に交尾態を観察しており、早朝から配偶行動を開始する一群なのであろう。(モノサシトンボは、午後でも交尾が見られる)

コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys

比企郡嵐山町都畿川 2.VIII.1997 3♂、交尾1(16:40)

同所 3.VIII.1997 2♂、交尾1(16:35)

両日とも天候は良く、♀がよく産卵に現れる平瀬で交尾を観察した。♂は、平瀬の水面に出ている石や岸辺の砂、草上などに静止して♀が産卵に来るのを待つ。8月の気温の高い時は、産卵は夕方に多く見られ、その♀を♂が捕捉して交尾が成立するので、交尾も夕方が多くなる。空中で交尾状となったカップルは、上空に消えてしまう。おそらくかなり高木に静止して交尾するのであろう。

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* Selys

秩父郡皆野町国神 29.VI.1997 約10exs.羽化

秩父市栃谷 17.VIII.1997 1♂、産卵2

大里郡寄居町折原 30.VIII.1997 交尾1(15:00) (写真1)

皆野町の小河川では、約10頭ものオニヤンマが羽化しており、壮観であった。羽化殻も極めて多数見られた。発見したのは午前7時40分頃であったが、全て脱出しており、飛び立つもの



写真2 コシボソヤンマ♂の羽化. 寄居町折原 (1997年7月17日)

も多かった。

秩父市栃谷の池は、おそらく水が湧いており、循環しているのだろう。岸辺の泥に産卵する♀を観察した。

コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* Selys

大里郡寄居町折原 19. VII. 1997 1♂羽化 (写真2)、2♂ 1♀羽化殻

寄居町折原の本種が生息する小川では、数は少ないものの、毎年同じ場所で7月20日前後に羽化殻を観察していた。しかしながら、羽化している個体にはなかなかめぐりあえないでいた。この日は、午前5時20分から捜し始める。すぐにアヤメの茎に真新しい羽化殻を見つけるもののトンボの姿はない。あきらめかけた6時頃、川面にオーバーハングした低木の枝に羽化直後の♂を発見した。川の中を歩いても下から覗きこまなにかぎり見えないところであった。すでに羽は開いていて、7時5分には飛び立った。

カトリヤンマ *Gynacantha japonica* Bartenef

大里郡寄居町折原 14. VIII. 1997 1♂ 2♀羽化 (写真3)

同所 30. VIII. 1997 交尾6 (8:45~14:00) (写真4)

同所 11. X. 1997 4~5♂ 産卵4~5

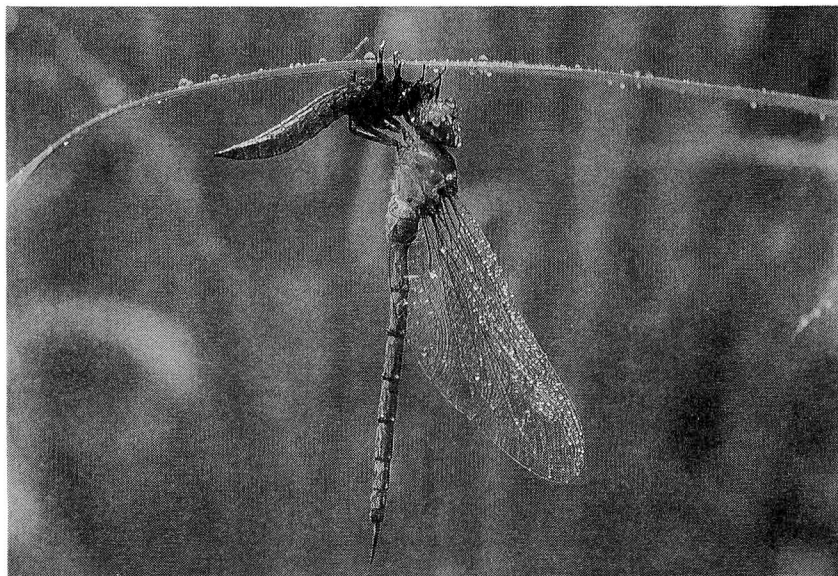


写真3 カトリヤンマ♂の羽化. 寄居町折原 (1997年8月14日)
 雨中にもかかわらず羽化がおこなわれる

同所	12. X. 1997	5~6♂ 交尾 2 産卵 4~5
同所	3. XI. 1997	産卵 2~3

寄居町折原の産地では、昨年は非常に発生数が少なかった。羽化の最盛期である8月中旬でも1♂2♀の羽化を見ただけであった。

しかし、一昨年の9月上旬に水田脇の林内で観察したのと同様、8月30日には、午前8時45分から午後2時の間に6対の交尾態を観察した。一部同じカップルを重複してカウントしている可能性もあるが、いずれにしても極めて多数である。ピークは11時から12時にかけてであり、最後のカップルが交尾を解いたのは、2時であった。林内を探雌する♂も2時頃まで見られた。なお、この間、林の外では♂♀とも全く見ることはなく、配偶行動初期である高温時の8月下旬~9月には、本種は主に林内のみで配偶行動を行うものと思われる。

10月11日には、午後12時40分に水田脇をホバリング飛翔する1♂を認め、2時40分までに4~5頭の♂のホバリング飛翔が観察された。このうちの1♂は、ホバリング飛翔中にミヤマアカネを捕らえ、道路を隔てた高木に静止し摂食した。また翌12日には、水田脇の草地でホバリング飛翔中の♂が侵入してきた♀を捕らえ交尾し(14:15)、また2時30分には水田脇を横切った♀と交尾が成立した。このことから、本種の交尾戦略は、8月下旬~9月の高温期と10月以降の低温期では全く異なることが観察された。



写真4 カトリヤンマの交尾。寄居町折原(1997年8月30日)
林内の枝に静止して行われた

タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Foerster

秩父市栃谷	29. VI. 1997	1♂羽化、羽化殻 10exs.	
同所	6. VI. 1997	1♀羽化 (失敗)	
同所	16. VIII. 1997	1♂, 産卵 1 (12:30)	(写真 5)
同所	17. VIII. 1997	2♂, 産卵 4 (11:00~13:00)	
大里郡寄居町折原	30. VIII. 1997	2♂摂食飛翔 (15:00~16:00)	(写真 6)

秩父市栃谷の池では、6月下旬から7月上旬にかけて羽化が見られた。8月中旬には成熟した♂のパトロール飛翔と♀の産卵が観察された。♀の産卵は、接水飛翔産卵と呼ばれ、一度打水した後、岸辺の草や落ち葉などの上空でホバリングし、その後腹部を打空し、放卵して行われる。♀の産卵には1ヶ所で打水と放卵を繰り返す個体と打水のたびにあちこち移動し、落ち着かない個体の2タイプが見られた。

なお、8月17日は、くもりで気温が低く、♂は短時間でパトロール飛翔を終え、飛び去ってしまったが、♀は頻繁に産卵に訪れた。

8月30日には、寄居町の林道で成熟♂の変わった摂食飛翔を観察した。場所は林道脇の車1台分止められるほどのスペースの空き地で、上空は両側の木によって覆われ日陰となり、日中でも直射光のあたらない陰湿なところである。ここにいつものように車を置き、午後3時頃、トンボの観察を終えて戻ったところ、車の上や脇を約1~1.5m程の高さでホバリングを混じえながらゆっくりと飛翔する1♂を発見した。最初は何をしているのかよくわからなかったが、ときおり小昆虫を捕らえていることから、摂食飛翔をしているものと思われた。本種の若い個



写真5 タカネトンボの産卵。秩父市栃谷 (1997年8月16日)
腹端に水をたくわえ、岸辺の土の上に打空して放卵する

体が上空の開けた道路上や空き地の上を高く摂食飛翔するのはしばしば観察されるが、成熟個体のこのような行動は初めて観察した。なお、1♂が静止後、すぐにもう1♂が同じような飛翔を行った。筆者の車は濃紺で、水面とまちがえたのだろうか？車のエンジンは停止していた。

アキアカネ *Sympetrum frequens* Selys

深谷市利根川河畔 11. X. 1997 三連結産卵 (A型の三連結：♂×♂×♀)

本邦でおそらく2例目と思われる三連結による打泥(水)産卵を観察した。詳細については日本トンボ学会誌「Tombo」に報告した。

リシアカネ *Sympetrum risi* Bartenef

飯能市阿須 23. VIII. 1997 5~6♂、連結産卵1

'95年にも同所で8月中旬に成熟した♂を複数観察しているが、8月下旬の産卵は早いものと思われる。なお、海岸に近い神奈川県三浦半島では、毎年8月中旬に多数の本種の産卵が観察される。

コノシメトンボ *Sympetrum baccha* Ris

秩父市栢谷 16. VIII. 1997 3exs.羽化 (写真7)

同所 17. VIII. 1997 1♂1♀羽化



写真6 タカネトンボの摂食飛翔交尾。寄居町折原(1997年8月30日)
止めてある車の近くでホバリングしたりして小虫を捕らえていた

水面から突き出た草や枯れ枝の他、岸辺の草の茂みの根元近くでも羽化しており、見つけにくかった。本種の羽化期を初めて知った。

ネキトンボ *Sympetrum speciosum* Oguma

秩父市栃谷 6. VII. 1997 5~6♂ (半成熟~成熟)、連結産卵1
同所 16. VIII. 1997 1♀羽化失敗、羽化殻多数

アカネ属のトンボの中には、羽化期が長いものが多いが、本種はその中でも典型的であり、ミヤマアカネと並んで最も早い時期から配偶行動が行われる。それにしても7月上旬に産卵が見られるとは驚いた。発消長を調査すると面白いのではないか。

- 参考文献 1) 新井 裕 (1983) : リスアカネの配偶行動。 *インセクテウム* (20) : 10-14
2) _____、喜多英人 (1997) : 水田を生息場所とするカトリヤンマの生態。
月刊むし (320) : 8-12
3) 枝 重夫 (1981) : タカネトンボの産卵。 *Tombo* 23 (1-4) : 1-2
4) 横井直人 (1997) : 福島県トンボ分布資料 VI。 *ふくしまの虫* (15) : 10-14
5) 喜多英人 (1996) : 埼玉県内でのトンボ記録。 *寄せ蛾記* (77) : 1999-2000



写真7 コノシメトンボ♂の羽化。秩父市栃谷 (1997年8月16日)

(きた きでと 〒203-0033 東京都東久留米市滝山6-2-15-308)

.....

東京都青梅市でモートンイトトンボを確認

喜田 英人

.....

筆者は、1997年6月1日、東京都内では記録が少ないと思われるモートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* Ris を埼玉県境に近い青梅市小曾木で確認した。この湿地には小さいながら開放水面が存在し、近くには流れもあって、キイトトンボ、ヤマサナエ、ヨツボシトンボなどが見られ、都内では貴重なトンボの生息地と思われる。

非常に狭い範囲(約30m×30m)で、しかもわずか4回の調査ではあるが、19種類観察できたので、他種の記録とあわせて報告する。なお、記録はすべて目撃(撮影)記録である。

モートンイトトンボ <i>Mortonagrion selenion</i>	1. VI. 1997	♂♀多数(未熟~成熟)
	21. VI. 1997	♂♀多数、交尾約15(写真1)
キイトトンボ <i>Ceriagrion melanurum</i>	21. VI. 1997	3 exs.(羽化直後)
	13. VIII. 1997	約10 exs.
アジアイトトンボ <i>Ischnura asiatica</i>	1. VI. 1997	1♂
	13. VIII. 1997	1♀
オオイトトンボ <i>Cercion sieboldii</i>	21. VI. 1997	2♂
	13. VIII. 1997	♂多数
オツネイトトンボ <i>Sympetma paedisca</i>	1. VI. 1997	1♂(成熟)
ヤマサナエ <i>Gomphus melaenops</i>	21. VI. 1997	3♂
コオニヤンマ <i>Sieboldius albardae</i>	21. VI. 1997	1♂
クロスジギンヤンマ <i>Anax nigrofasciatus</i>	21. VI. 1997	1♂
ギンヤンマ <i>Anax parthenope julius</i>	21. VI. 1997	4♂, 交尾2(写真2), 連結産卵2
コヤマトンボ <i>Macromia amphigena</i>	21. VI. 1997	1♂
ハラビロトンボ <i>Lyrithemis pachygastra</i>	1. VI. 1997	♂♀多数(未熟~成熟)
	21. VI. 1997	♂♀多数, 交尾約20, 産卵1
	6. VII. 1997	♂♀多数
	13. VIII. 1997	3♂

シオカラトンボ <i>Orthetum albistylum speciosum</i>	1. VI. 1997	♂♀多数
	21. VI. 1997	♂♀多数
	13. VIII. 1997	♂♀多数
シオヤトンボ <i>O. japonicum</i>	1. VI. 1997	5~6exs.
オオシオカラトンボ <i>O. triangulare melania</i>	13. VIII. 1997	2♂
ヨツボシトンボ <i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>	21. VI. 1997	4♂ (写真3)
コフキトンボ <i>Deielia phaon</i>	21. VI. 1997	1♀ (未熟)
アキアカネ <i>Sympetrum frequens</i>	21. VI. 1997	1♂ (未熟)
ウスバキトンボ <i>Pantala flavescens</i>	13. VIII. 1997	多数
チョウトンボ <i>Rhyothemis fuliginosa</i>	6.VII. 1997	1♀



写真1 モートンイトトンボの交尾(21.VI.1997)



写真2 ギンヤンマの交尾(21.VI.1997)



写真3 ヨツボシントンボの patrool 飛翔(21.VI.1997)

- 参考文献 1) 山口正信(1982): 東京五日市広徳禅寺の蜻蛉相. *Tonbo*,25(1-4):30-31
2) 須田慎一(1994): 東京のトンボ覚え書き・1. シブチャン 1:16-17

(きた きでと 〒203-0033 東京都東久留米市滝山6-2-15-308)

.....

皆野町国神一ト星池付近のトンボ (2)

松崎 雄一

.....

筆者は、1994年の寄せ蛾記で、皆野町国神のトンボ相の概要について触れたが、当地がオゼイトトンボをはじめ、沢山の種類のトンボを観察できる貴重な環境であったことと、すぐそばに出来たゴルフ場により、その環境がどう影響を受けていくのかに興味を持ち、それ以降も引き続き調査を行ってきた。今年で、国神を調べだして5周年となり、データの蓄積量も増えたので、とりえず中間報告を行うこととした。

データ作成に当たり、私信にて当地の観察データをご教示下さった、本会会員松本克臣氏、及び、安永一正氏にこの場を借りてお礼申し上げたい。

1) 1997年の当地の状況

池の上にあるゴルフ場は、1996年より開業した。これにより、国神が、トンボ相に対するゴルフ場の影響を調査する絶好のサンプルとなってしまうことになる。

実際に水質の変化を調べたわけではないので断言は出来ないが、見た目では特に今年に入って池の水の汚濁が進んだように感じられる。ゴルフ場からの排水がU字溝をつたって一ト星池に流れ込んでいる現状を考えると、水が汚濁してこない方が不思議なくらいである。周囲の環境は見た目にはここ数年さほど変わっていないようだが、間接的には、ゴルフ場開発に当たっての樹木伐採、直接的には、ここ2年の降水量減少によって、湿地や谷戸部の小池の湿性遷移がかなり進んだ。オゼイトトンボをはじめ、これによって影響を受けた種類がいることも見逃せない事実である。

2) ここ6年間のトンボ相

表1に示したとおり、1993年から1996年にかけて各年40種以上のトンボを観察している。また、96年には新たにヤマサナエ（一ト星川での複数個体羽化）、サラサヤンマ（縄張り、産卵、交尾）を追加した。1997年は、調査不足のため30種余にとどまったが、松本、安永両氏の私信によると、筆者の確認し得な

かった、マルタンヤンマ、リスアカネ、チョウトンボ等も観察されていたようである。通算では、本会会員によって記録された、オジロサナエ、ダビドサナエ（斉藤1996）も合わせると、この5年間で、ちょうど50種のトンボが記録されている。今時、このような狭い区間内で、これだけの種類が一度に見られる事はなかなか無く、いかに皆野町国神がすばらしいトンボの生息地であるかがわかる。

筆者が当地を最も多く訪れた1993年に確認出来た45種の内訳と、その後各年の確認種を照らし合わせると、ほぼこの地のトンボ相の全貌が明らかにされたと言える。尚、今後新たに追加可能な種としては、ミヤマサナエ、アオサナエ、オナガサナエ、コシボソヤンマ、コヤマトンボなど付近の溪流から飛来しうるものがあげられる。

3) 主なサンプル

1. モートンイトトンボ

1993～94年にかけて、6、7月に池下の湿地で数頭ずつ観察できたが、以後は全く見られなくなっている。本種は、休耕後間もない水田に発生するが、湿性遷移が進むとやがて見られなくなってしまう。秩父市内にある本種の一発生地は、まだ休耕後数年で植物もまばらで、97年にはかなり多数の本種の生息を認

めたが、休耕後10年以上を経た国神の湿地では湿性遷移がかなり進み、もはや本種は生息できないものと考えられる。また、国神において観察できた兩年とも、個体数がかなり少なかったことから、当地に於いては既に消滅寸前だったとも考えられる。

ちなみに、横瀬町赤穂木池のケースでは、1974年から76年にかけては、池の上部にある湿地がまだ湿性遷移が進んでおらず、多数の本種が見られたが、1982年には、湿性遷移が進み、上部の湿地では全く見られず、下の水田で少数が観察された。90年代に入ってから、更に湿性遷移が進んで、本種は殆ど観察できなくなっている。

国神に於いて、明らかに湿性遷移の影響により減少しているものとしては、同所で多産していたヒメアカネ、ハラビロトンボもあげられる。

2. キイトンボ

埼玉レッドデータには入っていないが、最近、極端に生息地が減少している要注意種。筆者の知る限り、最近2、3年も観察されているのは、当地の他では、鷲宮町、岩槻市、鳩山町、秩父市、長瀨町、寄居町の数カ所のみで、多くの産地では80年代には姿を消してしまったようである。植生豊かな池沼に生息する典型的な種で、そのような環境が破壊されつつある現状では、本種の生存が非常に危ぶまれる。水質汚濁は勿論、外来魚の進入をはじめとする生態系の変化に極めて弱い。したがって、国神における本種の存亡が、当地の環境変化のパロメータと見ることも出来る。同様の環境を好むヨツボシトンボを、97年中に確認できなかった事実が気になるころではある。

3. オゼイトンボ

県内唯一の産地であったが、結局、これまでの報告の通り、1995年以降、全く目撃していない。97年は、本種の最盛期と思われる6月上旬の天候の良い日に当地を訪れたが、やはり全く確認できず、もはや絶滅したのではないかとと思われる。理由としては、モートンイトンボ同様、湿性遷移があげられるが、直接の引き金は、池上部の湿地のゴルフ場開発に伴

う埋め立てであろうと考えられる。筆者が最初に訪れた91年秋は、既にそのような湿地は存在しておらず、どのような景観を呈していたかは想像の域を出ないが、無くなる前に調査出来ていたらと、悔やまれてしょうがない。

4. ルリボシヤンマ

当地では、元々多くなかったが、95年以降は成虫の飛来を確認できていない。小規模な池や湿地に依存する種類なので、降水不足が響いているのではないかと考えられる。谷戸部の小池で、毎年本種の羽化殻を採集しているが、羽化数は極めて少ないようである。

5. オオルリボシヤンマ

確実な産地の一つ。当地では比較的多産し、産卵や羽化殻も観察できる。ここ数年県内のみならず、近県における本種の記録が増えてきており、少なくとも秩父地方では稀種と呼べる存在ではなくなりつつある。前種とは池の大小で棲み分けることが知られるが、明らかにルリボシヤンマの好むと思われるような池でも本種の飛来を確認しており、97年9月には、元々ルリボシヤンマの生息地であった秩父市内の小さな池で、本種とルリボシヤンマが激しく縄張り争いをしているのも観察している。こういった現象が、本種の南下傾向を示すものか、はたまた地球温暖化に備えた種の存続をめぐる両者の争いなのか、或いは単なる一時的な事なのか、もう少し長期サンプルを取ってみたいと解明できそうもない。調査不足のため断定は出来ないが、横瀬町赤穂木池では、1977年8月及び、1991年9月に相当数のルリボシヤンマを確認したが、1992年8～9月には確認できず、オオルリボシヤンマの飛来を確認している。

6. キトンボをはじめとするアカトンボ類

国神のトンボ相の特徴の一つとして、アカネ類の充実があげられる。県下において記録されているアカネ類の内、低地の開放的な沼地に生息するマイコアカネ、オオキトンボ以外のすべてを見ることが出来る。特に、ネキトンボがかなり普通に見られ、県内では長瀨の岩畳が唯一確実な産地であるキトンボや、産

		1992	1993	1994	1995	1996	1997
1	モートンイトトンボ	—	○	○	×	×	×
2	キイトンボ	○	○	○	○	○	○
3	アジアイトトンボ	○	○	○	○	○	○
4	クロイトトンボ	○	○	○	○	○	○
5	オオイトトンボ	○	○	○	○	○	○
6	オゼイトトンボ	—	○	○	×	×	×
7	モノサシトンボ	○	○	○	○	○	○
8	オツネイトンボ	○	○	○	○	○	○
9	ホソミオツネイトンボ	○	○	○	○	○	×
10	アオイトトンボ	×	○	○	○	○	○
11	オオアオイトトンボ	○	○	○	○	○	○
12	ハグロトンボ	—	○	×	×	○	○
13	ミヤマカワトンボ	—	○	○	○	×	○
14	ヒガシカワトンボ	—	○	○	○	○	○
15	ヤマサナエ	—	×	×	×	○	×
16	コサナエ	—	○	○	○	○	○
17	コオニヤンマ	○	×	×	○	×	○
18	オニヤンマ	○	○	○	○	○	○
19	サラサヤンマ	—	×	×	×	○	×
20	ミルンヤンマ	×	○	○	○	○	×
21	カトリヤンマ	○	○	○	○	○	×
22	ヤブヤンマ	—	○	○	○	×	×
23	ルリボシヤンマ	×	○	○	○	○	○
24	オオルリボシヤンマ	○	○	○	○	○	○
25	マルタンヤンマ	○	○	○	○	○	—
26	ギンヤンマ	○	○	○	○	○	○
27	クロスジギンヤンマ	○	○	○	○	○	○
28	タカネイトンボ	○	○	○	○	○	○
29	オオヤマトンボ	—	○	○	—	×	×
30	ハラビロトンボ	—	○	○	○	○	○
31	シオカラトンボ	○	○	○	○	○	○
32	シオヤトンボ	○	○	○	○	○	○
33	オオシオカラトンボ	○	○	○	○	○	○
34	ヨツボシトンボ	—	○	○	○	○	×
35	ショウジョウトンボ	○	○	○	○	○	○
36	ミヤマアカネ	○	○	○	○	○	○
37	ナツアカネ	○	○	○	○	○	○
38	アキアカネ	○	○	○	○	○	○
39	ヒメアカネ	○	○	○	○	○	○
40	マユタテアカネ	○	○	○	○	○	○
41	リスアカネ	○	○	○	○	○	×
42	ノシメトンボ	×	○	○	○	○	○
43	コノシメトンボ	○	○	○	○	○	×
44	キトンボ	○	○	○	○	○	×
45	ネキトンボ	○	○	○	○	○	○
46	ウスバキトンボ	○	○	○	○	○	○
47	コシアキトンボ	○	○	○	○	○	○
48	チョウトンボ	—	○	○	×	×	—
		30	45	44	41	41	33

〔表〕 皆野町国神における通算確認種 1992.9/9～1997.10/13
 (○・・・確認、×・・・未確認、—・・・発生時期未調査、但しすべて松崎の記録に基づく)

地の少ないヒメアカネ、リスアカネ、コノシメトンボも見ることが可能である。97年中は、キトンボ、リスアカネ、コノシメトンボの確認が出来なかった。キトンボは、10月にそれらしい個体を目撃したものの確認できなかったが、おそらくコノシメトンボ共々まだ生息していると推察される。リスアカネは、松本、安永両氏の私信によると8月末から9月にかけて観察されたという。

4) 皆野町国神のオゼイトトンボについて

既に絶滅したと推定されるオゼイトトンボについては、95年に、本会の碓井徹氏らのご努力で、自治体及びゴルフ場に対し「皆野町国神の環境保全に関する要望書」が、トンボと自然を考える会関東支部より提出された。

皆野町ではこれを受けて、ゴルフ場に対し環境保全事項を申し入れると共に、96年に現地調査を行い、オゼイトトンボを複数頭確認したとのことであるが、同年複数回の調査に拘わらず全く観察できていない筆者にとっては、素直には信じがたい報告である。一方、ゴルフ場からも回答が得られたが、皆野町の示した農業の使用等に関する申し入れの細目には触れず、工事が完成した跡にオゼイトトンボが発見されたのは、自社の環境保全策が効を奏した表れであり(本当は完成後、設備維持のために使われる種々の薬剤が問題なのだが)、排水路には炭ガラを設置して汚染防止に努めるつもりであるといった、はぐらかしもとれるものであった。

参考文献

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| 新井 裕 (1993) : 秩父市峯沢堤のトンボ | 寄せ蛾記[66]: 1431-1434 |
| 松崎雄一 (1994) : 皆野町国神一ト星池付近のトンボ | 寄せ蛾記[72]: 1677-1681 |
| 松崎雄一 (1995) : 皆野町国神のオゼイトトンボ その後 (1) | 寄せ蛾記[77]: 2013-2014 |
| 喜多英人 (1995) : 埼玉県内でのトンボ記録 | 寄せ蛾記[77]: 1999-2000 |
| 喜多英人 (1997) : 1996年 埼玉県内でのトンボ記録 | 寄せ蛾記[83]: 2320-2322 |
| 斉藤 清 (1996) : 埼玉県内でのトンボ類採集記録 | 寄せ蛾記[78]: 2050-2052 |
| 斉藤 清 (1997) : 埼玉県内でのトンボ類採集記録 1996 | 寄せ蛾記[82]: 2263-2268 |
| 西田 彰 (1997) : 埼玉県下におけるトンボ類の採集記録 (4) | 寄せ蛾記[82]: 2269-2270 |

5) トンボにとっての、その他の障害

1. 天敵

一部の地元民が、楽しみで金魚を放しているようである。これについては、よそ者の筆者ごときが事の是非を問える立場ではない。また、ウシガエルは、元からいたものではなく、輸入された種が定着したものである。彼らによる捕食圧は相当なものであろう。

2. 採集圧

皆野町国神で、多くの種類のトンボを観察できる要因としては、当地が比較的良好に整備され、周囲の見通しがよく、トンボを探しやすいということがあげられる。これは裏を返せば、当地のトンボ個体数が決して多いというわけではないことを示しており、環境破壊のみならず、乱獲によっても個体数を減じる可能性が全くないとは言いきれない。筆者が、94年に当地のトンボ相を紹介して以来、本会会員以外も含めたトンボ愛好家が少なからず当地を訪れているようであるが、必要以上の採集をされないことを切に願うと同時に、ごみや吸いがらの投棄など、マナーに反することだけではないように注意して頂きたいと思う次第である。

今のところ、環境破壊がゴルフ場によって引き起こされたという明確な数値は現れていない。これはこれでとても良いことだが、今後の行く末はしっかりと見届けていきたい。ただ、付近の住民の方々には、なるべくご迷惑にならないように今後も注意したいと思う。

.....

埼玉県蜻蛉目調査 (7) 1997年7~11月

松崎 雄一

.....

1997年下半年、県内で観察出来たトンボ類の内、比較的少ない種の記録、その他、興味深い若干の記録について報告する。目撃記録は、()でくって表示。◎は、写真撮影したものを含む。

モートンイトトンボ

秩父市栃谷 ◎ (多数) 7.19/ (10数頭) 8.1

キイトンボ

皆野町国神 ◎ (5♂2♀) 7.19/ (2♂) 8.1

ベニイトトンボ

岩槻市赤坂沼 ◎ (10♂1♀) 7.15

アジアイトトンボ

深谷市中瀬 (多数) 10.8

本種♂とクロイト♂の異種間同性接続を観察 (写真)。

オオイトトンボ

東松山市上唐子 ◎ (1♂) 8.20

モノサシトンボ

越生町大亀沼 (1♂) 8.22

小川町古寺 (1♂) 9.2

アオイトトンボ

皆野町国神 (1♂1♀) 9.11

秩父市栃谷 (1♂) 9.11

ハグロトンボ

皆野町国神 ◎ (1♂) 7.19/ (1♀) 9.11

皆野町三沢 (多数) 7.19

秩父市栃谷 (1♀) 9.11

小川町古寺 ◎ (多数) 8.20/ (少数) 9.2

越生町黒山 (少数) 8.22

ヒガシカワトンボ

秩父市栃谷 (1♂) 8.1

かなり遅い時期の目撃記録。著しく粉を吹いて全体的に白っぽい感じが強く、シロバネカワトンボのようでもあった。

オジロサナエ

小川町古寺 ◎ (1♀産卵) 8.28/ (1♀) 9.2
9.2の1♀は、筆者の肩に止まり、卵塊を排出していた。秩父市栃谷で、7~9月に何度か本種と思われる個体を目撃したが、確認出来ず。

オナガサナエ

秩父市栃谷 ◎ (1♀) 7.19
池畔に飛来し、約4時間静止したままだった。
小川町古寺 ◎ (5♂2♀) 8.20

コオニヤンマ

皆野町三沢 (2ex) 7.19

秩父市栃谷 (1♂1♀) 7.19

越生町黒山 (1♂) 8.22

ミルンヤンマ

秩父市栃谷 (1ex) 9.11

コシボソヤンマ

小川町古寺 ◎ (1♂1♀産卵) 8.20
/◎ (2♂1♀産卵) 8.28/◎ (1♀産卵) 9.2
長湍町 1♀死骸 9.11 (国道にて拾う)
9.2産卵中の♀を撮影しようと近づいたところ、急に飛び上がって、筆者の顔に張り付き産卵をしようとした。同様の行動はミルンヤンマ等でも観察されているという。

アオヤンマ

岩槻市赤坂沼 ◎ (5♂) 7.15

カトリヤンマ

小川町古寺 ◎ (1 ♀) 8.28

ヤブヤンマ

秩父市栃谷 (3 ♂) 7.19/◎ (2 ♂ 1 ♀) 8.1
8.1に観察した♀は、複眼の青い青色型であった。かなりの老熟個体と見え、もともとよろよろと飛んでいたが、オニヤンマ♂と衝突して池面に落とされたダメージが大きかったのか、産卵を行っている途中に水面に落下し溺れかかっていた。(数枚撮影の後、救出。)

マダラヤンマ

羽生市 ◎ (1 ♀) 9.20

前日は、台風20号が関東の沖合いを北西進し、その2日程前は、19号が日本海を進んでいたことから考えると、どこからか飛ばされてきたものとも考えることもできる。

ルリボシヤンマ

皆野町国神 1 ♂羽化殻 7.19
秩父市栃谷 (1 ♂) 9.11

オオルリボシヤンマ

皆野町国神 (3 ♂ 2 ♀) 9.11
秩父市栃谷 ◎ (1 ♂ 1 ♀) 9.11

最近、本種の記録が増えているが、ルリボシヤンマは、滅多に見かけなくなった。

タカナトンボ

秩父市栃谷 (1 ♂) 7.19/◎ (2 ♂ 1 ♀産卵)
8.1/◎ (3 ♂ 3 ♀内、1 ♀死骸) 9.11

8.1には既に、複数♂の縄張りが見られ、夕刻6時頃♀の産卵を観察できた。

ショウジョウトンボ

秩父市栃谷 (1 ♂ 1 ♀) 7.19
深谷市中瀬 (2 ♂) 10.1

ミヤマアカネ

秩父市栃谷 (1 ♀) 8.1
小川町古寺 (2ex) 8.20
越生町大亀沼 (2 ♀) 8.22
鳩山町熊井 ◎ (1 ♀) 8.22

マイコアカネ

幸手市内 ◎ (♂数頭) 9.29

ヒメアカネ

秩父市栃谷 ◎ (1 ♂ 2 ♀) 7.19
/◎ (1 ♂ 2 ♀) 8.1/ (多数) 9.11
越生町大亀沼 ◎ (1 ♂) 8.22

リスアカネ

秩父市栃谷 ◎ (1 ♀) 8.1/ (1 ♂ 1 ♀) 9.11

オオキトンボ

深谷市中瀬 (1 ♂) 10.1/◎ (6 ♂ 3 ♀) 10.8

ネキトンボ

小川町古寺 ◎ (2ex) 8.20/◎ (2 ♂) 8.28
越生町黒山 ◎ (1 ♂) 8.22
秩父市栃谷 (1 ♂) 9.11
皆野町国神 ◎ (2 ♂ 1 ♀) 9.11

チョウトンボ

岩槻市赤坂沼 (1ex) 7.15

(まつぎきゆういち 〒179-0073 練馬区田
柄5-9-18-203)



アジイトトンボ♂ (上)、クロイトトンボ♂ 異種間同性連接
深谷市中瀬 1997.10.8 筆者撮影

.....

埼玉県から新たに発見された水生半翅類

碓井 徹*・林 正美**

.....

埼玉県からは近年いくつかのアメンボ類, コバンムシ, ミヤケミズムシなどが新たに記録された(林・碓井 1990a, 1990b; 碓井 1996a, 1996b)。さらに, 最近の調査によって, 埼玉県未記録の水生半翅類4種を確認したので報告する。

ミズカメムシ科 Mesoveliidae

ムモンミズカメムシ *Mesovelia miyamotoi* KERZHNER, 1977

〔確認地点〕上尾市平方・三叉沼, 北本市連沼(比企郡吉見町との境界), 児玉郡児玉町秋山, 比企郡小川町高見(深田谷沼), 秩父市寺尾。

ヒシなどの挺水植物が発達する池沼に発見され, それぞれの産地での個体数は比較的多い。なお, 「さいたまレッドデータブック-埼玉県希少野生生物調査報告書動物編-」(埼玉県, 1996年3月発行)に希少種として掲載されているミズカメムシ *M. vittigera* HORVÁTH は本種との誤同定である。

ヘリグロミズカメムシ *Mesovelia thermalis* HORVÁTH, 1915

〔確認地点〕岩槻市村国, 越谷市西新井, 比企郡鳩山町須江。

本種は市田(1991)によって日本から初めて記録されたもので, その分布記録は青森県に限られていた。従って, 本種が埼玉県で発見されたことは注目に値する。生息環境は前種に似るが, 水深が浅い所を好むようである。また, 現在までの知見では, 前種と混生することはない。なお, 過去に北海道や本州から“ムモンミズカメムシ”として記録されたものの中には本種と混同されていることも考えられ, それぞれの産地の標本を再確認する必要がある。

コオイムシ科 Belostomatidae

オオコオイムシ *Appasus major* (ESAKI, 1934)

〔確認地点〕秩父市井森。

同属のコオイムシ *A. japonicus* (VUILLEFROY) は久喜市(大熊 1989)と飯能市(苅部・高桑 1994)からの2例の記録がある。本種は, 開放的な水域でなく, 谷地などの湿地などに生息する。埼玉県の産地もこのような環境で, 渇水時には草の根際(陸上)に多数がみられた。なお, 「さいたまレッドデータブック」には県内絶滅危惧種として挙げられている。神奈川県では丘陵地で多くの産地が知られるが, コオイムシとして記録されたもののほとんどが本種であったという(苅部・高桑 1994)。

マルミズムシ科 Pleidae

ヒメマルミズムシ *Paraplea indistinguenda* (MATSUMURA, 1905)

〔確認地点〕秩父郡横瀬町苧米, 秩父市寺尾。

抽水食物, 水中の緑藻類が繁茂する湿地から採集され, 生息範囲は非常に狭い。生息状況からみると, 本種の生存は危機的と思われ, 少なくともこのような環境を現状のまま保存したいものである。

引用文献

- 林 正美・碓井 徹(1990a) 埼玉県におけるアメンボ4種の記録. *Rostria*, (40): 657-661.
 林 正美・碓井 徹(1990b) 埼玉県における水生異翅類2種の記録. *Rostria*, (40): 662.
 市田忠夫(1991) 青森県のカメムシ(III). *Celastrina*, (26): 44-54.
 苅部治紀・高桑正敏(1994) 神奈川県を主としたコオイムシ属2種について. 神奈川自然誌資料, (15): 11-14.
 大熊光治(1989) 久喜市の水生昆虫類. 久喜市の動植物(久喜市教育委員会) II, pp. 140-145.
 碓井 徹(1996a) 埼玉県におけるアメンボ4種の新産地(1). 寄せ蛾記, (78): 2077-2080.
 碓井 徹(1996b) 埼玉県におけるミヤケミズムシの新産地. 寄せ蛾記, (78): 2080.

(* うすいとおる 〒362-0046 上尾市壺丁目 454-3)

(** はやしまさみ 〒338-8570 浦和市下大久保 255 埼玉大学教育学部生物学研究室)

.....

会員諸氏から寄せられた埼玉県内でのトンボ類の記録

碓井 徹

.....

『埼玉県昆虫誌』の刊行に向けて、『昆虫の同定を依頼し合う会』がこれまでに何度か開かれ、その席上で会員諸氏からいくつかのトンボ類の標本を託された。

以下にそれらの記録をまとめておきたい。標本を提供して下さったみなさんに感謝申し上げる。

LESTIDAE アオイトトンボ科

Lestes sponsa (HANSEMANN, 1823) アオイトトンボ

秩父市：1♀, 10.VIII.1980, 小堀文彦 採集

CALOPTERYGIDAE カワトンボ科

Calopteryx atrata SELYS, 1853 ハグロトンボ

飯能市阿須：1♂1♀, 25.VI.1995, 和田一郎 採集

GOMPHIDAE サナエトンボ科

Anisogomphus maacki (SELYS, 1872) ミヤマサナエ

大宮市高鼻町氷川神社：1♂, 26.V.1992, 矢野高広 採集

秩父市定峰：1♀, 27.VII.1996, 小堀文彦 採集

秩父市大平山(標高1,480m)：1♂, 02.VIII.1995, 町田和彦 採集

Onychogomphus viridicostus (OGUMA, 1926) オナガサナエ

大宮市高鼻町氷川神社：1♂, 03.VIII.1992, 矢野高広 採集

Davidius nanus (SELYS, 1869) ダビドサナエ

秩父市橋立林道：1♂, 24.VI.1995, 和田一郎 採集

Davidius fujiama FRASER, 1936 クロサナエ

入間郡名栗村炭谷入林道：1♂, 27.V.1995, 和田一郎 採集

Lanthus fujiacus (FRASER, 1936) ヒメクロサナエ

秩父郡皆野町美の山：1♂, 14.VI.1992, 小堀文彦 採集

Sinogomphus flavolimbatus (OGUMA, 1926) ヒメサナエ

秩父郡荒川村熊倉山：1♂, 08.VII.1981, 小堀文彦 採集

Ictinogomphus clavatus (FABRICIUS, 1775) ウチワヤンマ

比企郡吉見町八丁湖：1♂, 31.VII.1988, 小堀文彦 採集

CORDULEGASTERIDAE オニヤンマ科

Anotogaster sieboldii (SELYS, 1854) オニヤンマ

秩父市橋立林道：1♂, 20.VIII.1995, 和田一郎 採集

AESCHNIDAE ヤンマ科

Planaeschna milnei (SELYS, 1883) ミルンヤンマ
秩父郡東秩父村：1♂, 02.IX.1990, 小堀文彦採集
秩父郡皆野町美の山：1♂, 20.VIII.1995, 和田一郎採集

Aeshna juncea (LINNAEUS, 1758) ルリボシヤンマ
秩父郡皆野町美の山：1♂, 20.IX.1992, 小堀文彦採集

Anax nigrofasciatus nigrofasciatus OGUMA, 1915 クロスジギンヤンマ
飯能市美杉台公園：1♂, 27.V.1997, 和田真理採集
秩父郡皆野町美の山：1♀, 14.VI.1992, 小堀文彦採集

LIBELLULIDAE トンボ科

Orthetrum triangulare melania (SELYS, 1883) オオシオカラトンボ
大里郡寄居町保田原：1♀, 16.VIII.1995, 和田一郎採集

(うすいとおる 〒362-0046 上尾市老丁目 454-3)

.....

埼玉大学構内にヨコヅナツチカメムシが多数生息

林 正美

.....

ヨコヅナツチカメムシ *Adrisa magna* (UHLER) は日本産ツチカメムシ科 Cydnidae の中でも最大級の種で、本州から九州にかけて広く分布する。埼玉県内でも数カ所からの分布記録はあるが、一度に多数の個体が確認された例はない。ところが、1997年6月に埼玉大学構内の私の研究室(教育学部A棟)や廊下の電灯に多数が飛来し始めた。このような状態は約10日間続いた。成虫の飛来開始翌日に4年生や院生(当時)と一緒に教育学部棟一帯を調べ、発生地(生息地点)が研究室のすぐ南側の中庭であることをつきとめた。

ここには、アオギリ(樹高約10m)が4本植えられており、カメムシはその落果に依存している。約1ヶ月ごとに生息状況を調査したところ、夏の7-8月にはきわめて多数の幼虫がみられ、8月下旬から新成虫が認められた。その後も順調に生存しており、1998年にも昨年ほどではないが、成虫の飛来がみられた。しかし、中庭では昨年に劣らないほどの多数の個体が生息している。

さらに、同じ場所でアシプトマキバサシガメ *Prostemma hilgendorffi* STEIN (マキバサシガメ科 Nabidae) の数個体を採集しているので付記しておく。

(はやしまさみ 〒338-8570 浦和市下大久保 255 埼玉大学教育学部生物学研究室)

訂正

ナカジロゴマフカミキリとヨコヤマヒゲナガカミキリの訂正について

築比地 秀夫

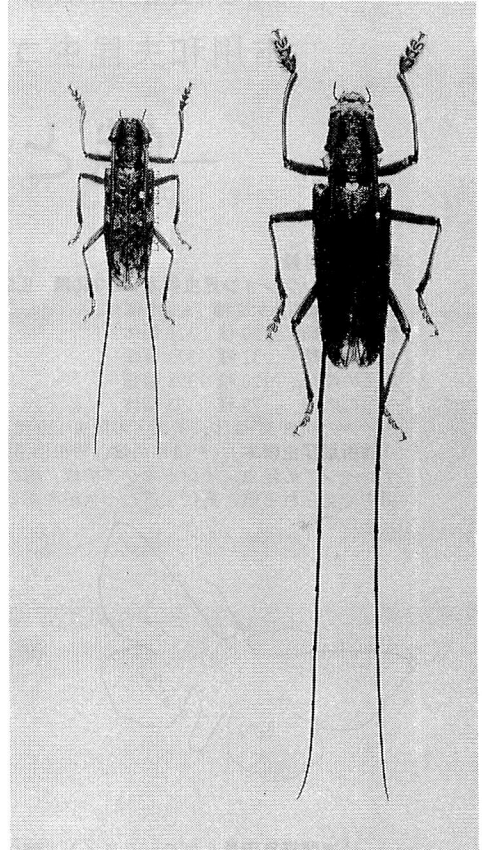
.....

寄せ蛾記No.84号, 2374頁「県民の森・採集調査・追加記録」の中で記録した種名に誤りがあったので、以下のように訂正する。

- ・ナカジロゴマフカミキリ →カタジロゴマフカミキリ
- ・ヨコヤマヒゲナガカミキリ→ヒゲナガカミキリ

埼玉県昆虫誌入力中の竹内さんより確認の電話があり、竹内、西山の両氏により同定していただいた結果、ヨコヤマヒゲナガカミキリと記した個体は、ヒゲナガカミキリの矮小、上翅紋発達型と確認された。

同定していただいた、竹内、西山の両氏にお礼申し上げます。



写真：左側は誤同定した矮小、上翅紋発達型のヒゲナガカミキリ
右側は正常なヒゲナガカミキリ

(ついでに ひでお 〒333-0842 川口市前川4-13-2)

寄せ蛾記87号 目次

和田一郎・小堀文彦：飯能市・所沢市産コガネムシ類数種の記録 ・・・・・・・・	2478
神部正博・小堀文彦・矢野高広：大滝村のタニガワモクメキリガ ・・・・・・・・	2479
中村英夫：97年中部イタリアで出会った蝶たち（その2）	2480
中村英夫：97年中部イタリアで出会った蝶たち（その3）	2489
矢野高広：1995年度アカボシゴマダラ発生について	2495
大熊光治：コオイムシを両神村で採集	2497
新井志保・豊田浩二：日高市におけるタカハシトゲゾウムシ の採集例 ・・・・・・・・	2498
豊田浩二：嵐山町平沢にて得られたヒラタクワガタ	2499
渡邊光行：ハルゼミとエゾハルゼミの記録 ・・・・・・・・	2500
江村 薫：熊谷市におけるオオワラジカイガラムシの家屋侵入2例 ・・・・・・・・	2500
喜多英人：1997年埼玉県でのトンボ記録 ・・・・・・・・	2501
喜多英人：東京都青梅市でモートンイトトンボを確認	2508
松崎雄一：皆野町国神一ト星池付近のトンボ（2）	2511
碓井 徹・林 正美：埼玉県から新たに発見された水性半翅類 ・・・・・・・・	2517
碓井 徹：会員諸氏から寄せられた埼玉県内でのトンボ類の記録 ・・・・・・・・	2518
林 正美：埼玉大学構内にヨコヅナツチカメムシが多数生息 ・・・・・・・・	2519
築比地秀夫：アカジロゴマフカミキリとヨコヤマヒゲナガカミキリ の訂正について ・・・・・・・・	2520
編集後記	2520

- お知らせのページ1 市川和夫昆虫コレクション展 「蝶と蛾の世界」の案内
2 【1998年度版 埼玉県植物誌】刊行と入手方法の案内

(埼玉昆虫談話会 1998年5月31日, pp43)

付：お知らせのページ 最後の2ページ